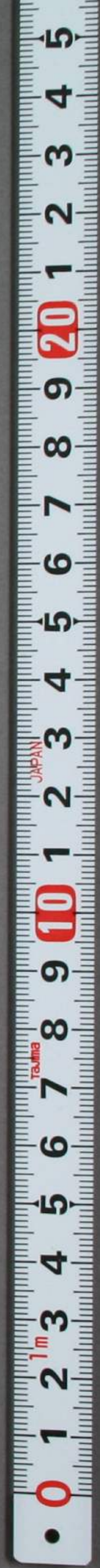




ル 4  
4882



門  
卷  
S884

廬山及西麓名所誌



山城志

即石所開

山州志

羅山文集

門 4  
號 4882  
卷

歐陽文忠公龍名所誌

鶴鶴堂人編述

山城志

都名所圖繪

山州名跡志

日本人名辭書

本朝高僧傳

鴨長明集

愛宕郡誌及各村誌

平安通誌

羅山文集

三代宮録

延長中神名帳

和漢三丈畝會

御宇御集

本誌出所

本誌出所

本誌出所

本誌出所

本誌出所

叡山及西村鹿名所誌

鷓鴣堂人編述

○ 野川下鴨村 地味干色 赤瓦 砂土 此年早秋 各山 升才 穀

下鴨村

○ 下鴨村 出所橋ノ北方 賀茂川ノ高

野川ト鴨川ニ合流スルノ地先ヨリ以北 松

ヶ岬町村ノ南部ニ境セル村落ナリ 戸数

人口

○ 賀茂御祖神社 官敷井大社ニシテ山城國

一ノ宮ナリ

明治四年官祭ニ列ス

川ヨリ今ヨリ半ミ石

廿四トナリ

廿五トナリ

廿六トナリ

廿七トナリ

廿八トナリ

廿九トナリ

三十トナリ

○祭神 玉依神 玉依日賣命 蓋建角身命也乎

桓武天皇ノ御時ヨリ上賀茂ト共ニ朝

廷ノ御堂尊最モ厚ク地勢ハ高野

賀茂西川ノ相會ル處ニアリテ社地老

樹巨木樹尉之倉トシテ晝尚暗ク清流既通

○彩丹畫廊ノ宮殿其向ニ隱見持隠し山森嚴壯麗

嚴ノ休觀ヲ成シテ肅敬仰情ニ堪ヘザラシム

○攝社

一言社

山ニ言社式所誌 尊嚴堂ノ殿也

三言社

夏印鑰社 夏三カノ日貴類男女ノ類集

ニ所社 夏三カノ日貴類男女ノ類集

諏訪社 夏三カノ日貴類男女ノ類集

○本類ノ東ニテハ安古國國司

白鬚社

比良木社

杉尾社

山石本社

○紇ノ本林ハ唐田社周圍ノ地ノ總稱ナリ京

五三三  
呼謝 六月十八日  
夏三言社  
呼謝 六月十八日

元明天皇和銅四年始テ行ハル昔ハ月中ノ日ナリ  
此日社司祭ヲ禁裡及大樹ニ進献ス用テ之ヲ  
以テ掛ク云云 和漢ニテ尚會ニナリ

御手洗水會一名  
夏越後身云々  
和催 六月十八日より  
至三昧日

都ヨリ程近キヲ以テ春ノ朝夏ノ夕ニ論ナク  
都人士女ノ來旋スルモノ是多クシ

○馬場 馬祖神社々前ヨリ以南河合ノ社ノ  
東手迄廣キ馬場アリ **青サエ繁茂シ** 壇ヲ  
敷クニ同シ 細草青々

○御手洗池 本殿ノ東ニアリ池水清澄透  
徹ニシテ 玻璃ノ如シ 老幹巨木直髓ニトシテ  
之ヲ蔽ヒ其幽静ノ致名状スヘカラス 且夏ニ  
夏ニ宜シ九夏三伏ノ日貴賤男女ノ群集  
スル處ナリ

○河合ノ神社 水ニ許ナリ往昔和泉

○貴船社 本殿ノ西ニ雙南向

大任部社 貴船社ノ西南向

六所社

三協社

○経寺 本殿ノ東西向 普賢菩薩ヲ安ス 海川ノ

○正田社

○日吉社

○泉川 松ヶ崎村界ヨリ来リ紅森母ヲ経テ 鴨居川ニ合ス  
此地、往昔和泉郡、住居セシ所ナリト云フ  
○西白河川 鴨居村界ヨリ涌出ス 西南流シテ泉川ニ合ス  
石河隈見ノ小川ト称ス

○葵橋

○巨谷ノ橋

○泉川 本殿ノ北ニテ許ナリ 往昔 和泉  
寺部ノ住居セシ所ナリト云フ  
○蟬ノ小川 紅ノ森ノ東ヲ流ル川ナリ 石川  
太山ノ歌

○料亭 相模屋ハ葵橋ノ北ニテ海川ノ  
鮮魚 膳ニ上リ庭園 閑雅 榭樓亦佳ナリ  
夏期納涼地ニ適ス  
夏期 納涼地ハ推テ第一位ト云フ 紅川ニ支  
房ヲリ 流水ノ間ニ涼棚ヲ架シ 紅燈 翠簾

以テ遊客ヲ待ツ若其初夏ノ夕河辺ノ流  
螢点クトシテ未往シ揚柳ノ風面ヲ吹テ寒カ

ラ又カハ雅俗共ニ優遊スルニ悦ム

拾遺集 終夜もゆるちたを今朝みれば草の葉ごとに露をれきける

健守法師

拾遺集 千早振かもの河邊の藤をみはかけてゆきり、時のなきかた

兵部

○白糸川水瀧水ニテ清まりて鈴音味泉

白糸川水瀧  
上野村  
上野村

下鴨警察署

河合神社、西ノリ、個、分署、個、派出所ヲ有シ

完全即、敬言、奉務ヲ掌ル

諸君、同、



右

野馬新址

本宮ノ西ニテリ。雷田理所ノ旧址ト云ク

神館馬新址

本ノ南ニテリ。神ノ内祝ニ毎年。甲子翌祭ノ片。信服

工壇所

本宮ノ東南ニテリ。おほく右。皆壇ヲ云ク

...

...

...

...

...

...

物産

茅種

大根

芋

芋類

茄子

芋

西瓜

竹

干菜

...

...

...

新園上賀茂村

東南ノ平垣ニテ赤里土且佳ナリ。稲麦。蕎麥。...

...

...

...

官幣大社賀茂別雷神社

祭神賀茂別雷神

亦。所。若。雷。神

...

鎮坐ノ地ヲ鴨山一名神山又ノ名二葉山。日影山

御影山ト云ク

謹テ諸書ヲ閲スニ。...

10月十九日...  
内々...  
上賀茂社...  
...

昔日向國ニ臨降ノ神アリ健角身神ト名ク丹波ノ伊香古耶姫ヲ娶リリテ女ヲ生ス玉依姫ト名ク後此ニ遷リ玉ヲ玉依姫瀬見ノ小川ニ遊フ時ニ丹塗ノ矢流下ル之ヲ取飯テ之ヲ牀中ニ置ク其矢霞夫ト化シ玉依姫乃子ニテ子ヲ産稍長シ玉ヲ祖父ノ神其夫ノ神ヲ知レト欲シ神宴ヲ設テ其子ニ謂テ曰ク此杯ヲ持テ復リ汝カ父ニ與フヘシ兒乃チ杯ヲ取テ矢ノ前ニ居而屋ノ燕ヲ穿テ天ニ昇リ玉ヲ兒ノ名ヲ別雷ノ神ト號ク云云

社傳ニヨリハ神武天皇ノ所時鎮座セシモノト云フ

神殿以下諸宮殿皆甚莊嚴ニシテ境内花樹  
富ノ清流四方ニ疏通ニテ肅然クハ靈地ナリ  
今茲ニ社ノ縁起ヲ掲グ

新古今集  
石川やせみの小川のみよけれハ月もあがれを尋ねてそす  
競馬 五月朔日之揃 同者行之

社人 弟らニ 着羊辟月而狩吐來 里色 左右各十番相雙  
馳行具東西攝埒栽櫻雞冠木二本以考勝負樹定屋  
速武衛敬言曰最嚴室也

(和屋三才園會)



古跡

而生所跡

高院址

古園址

富本神社址

神宮寺址

加之神方址

佛光山悟庵址

多宝塚址等

圖中

上野原村

神宮寺跡の北にありて、古くは神宮寺と云ふなり。今も跡あり。K50225

佛光山悟庵跡の北にありて、古くは佛光山と云ふなり。今も跡あり。K50226

大園池

又美止呂池、借三美呂池、美呂池、保原池

大園池、借三美呂池、美呂池、保原池

大園池、借三美呂池、美呂池、保原池

如庵 西瓜、茄子、  
之根、莖菜、  
豆、酢菘、  
年翼、松茸、  
小鳥、蓴菜、  
菜、壽

〇凡園の赤林

新古今集  
郭公こゑ待かどかた虫のモリのまづくにたちやぬれまし 紫本部  
郭公深山出なるはつこゑをいづれのさとのたれがきくらん べんのめのと

市菩薩池村

〇大田原

又美止呂池 倍云美曾呂池 美度呂池 深派池

〇大田原 市菩薩池村 美度呂池 深派池

無  
上野楽社外

○地藏堂

地藏菩薩

立像七尺

小野堂作

平本國清盛ノ願ニ因テ此所ニ安置ス

○大豆塚

○柝塚

○橋峠

○ 歌 札

○ 歌 札

○ 大塔宮、内屋敷

大塔宮、内屋敷

△世色、法里、王質、中華、處、水利、元、今、ナ、ス、ス  
系、二、通、ス

古事記  
大塔宮、  
伊屋敷

西國、  
大塔宮、  
伊屋敷

古事記、  
大塔宮、  
伊屋敷

大塔宮、  
伊屋敷

大塔宮、  
伊屋敷

大塔宮、  
伊屋敷

大塔宮、  
伊屋敷

大塔宮、  
伊屋敷

大塔宮、  
伊屋敷

大塔宮、  
伊屋敷

大塔宮、  
伊屋敷

大塔宮、  
伊屋敷

大塔宮、  
伊屋敷

大塔宮、  
伊屋敷



概して砂土星  
福色ニシテ  
地皮頗る薄シ  
稲梁ニ粗適  
シ桑葉ニ適  
又水初便ニシ  
テ日干極寒也

### 白川村

○白川村ハ東ハ區賀縣山中村ニ接シ南ハ上京  
区浄土寺町・吉田町ニ接シ西北ハ田中村ニ接  
寺村ニ接ス戸數 人口

○天神宮ノ社 字仕伏ノ山上ニアリ

祭神 少名彦命 又曰ク天満王神

例祭 十月二十三日 神輿迄基 鉞 参本

天神宮ノ額 照高院道法親王ノ御筆

古老ノ申傳ニ本社祭神ハ洛陽西洞院

通松原角天使ノ社ト以同體ノ由俗ニ

○天使大明神ト唱来リ且後照高院道

是法親王天神宮ト奉奉額アリレヨリ

天神宮ト稱セシトテ總テ記録類ハ文政年

間村内大火ノ節焼失セリ

祭禮ノ前ニ日即チ十月廿日未明ニ古代ノ

儀式ニ則リ有名ナル献饌ノ祭典アリ

○什宝具

市劔 志振 銘元禄八年八月三日福永作之

黒鉞 志本 銘延喜八年八月十三日 (距今約千年)

但此鉞ハ前年博覧會ハ出品セシ  
アリ

白川村  
天神宮  
照高院道  
法親王ノ御筆

雲之山  
佛系觀寺 浄土宗 知恩院末

本尊阿彌陀如來 立像三尺八寸  
脇檀 見此沙門天 作不詳ト故ト多ク年曆ヲ経タルモノナリ  
向山不詳 數度ノ回祿ニヨリ書類ニテ徴スヘキナレ

中興阿山信譽和尚

佛殿ノ額ハ 華頂大僧正順真ノ書

寺ハ 廬山三千防ノ内ナリシヲ 織田信長公ノ為ノ焼失

ヤラレ 舊記什寶等烏有ニ歸ス 且後ニ慶長十三年十月

信譽和尚再建セラル 寺時ノ佛殿ハ 元上賀茂神宮

寺ノ伽藍ナリシヲ 明治維新ノ際 神宮寺廢寺トナルヨリ  
寺寺ニ買収セシモノナリ 蓋即内有數ノ建物ナリ

○ 小澤廬菴公羽ノ墓 瓜生山下字心性寺ニアリ

境内ニ見沙門堂アリ  
明治十二年頃廢寺トナレ  
寺佛殿ノ脇  
増ニ安直ナリ

兼寺門前ヨリ 三町 龍門寺ニテ 龍門寺ニテ 龍門寺ニテ

小澤廬菴ハ 有名ノ 歌人ナリ 名ハ玄中 廬菴ハ其号

又 觀荷堂ト稱ス 通称ハ 帶刀原 尾張ノ老翁

竹腰氏ノ家臣 幼ニシテ 大阪ニ住ス 長スルニ及ビテ 京師ニ

徙リ 泉公ニ仕フ 年三十五ニシテ 致仕ス 母ヲ 尾張ヨリ

迎ヘ 筆耕以テ之ヲ 養フ 後々 歌學ヲ以テ 業トス 始メ

冷泉為村ノ門ニ入リ 故カリシ 破門セラル 後自ラ一家ヲ

ナス 上田秋成 伴蒿 隣ト友トシ 善シ 又 叙枝ヲ 善クス

人トナリ 方正 端嚴 邪ヲ 疾ム 持シ 甚シ 人過チアレバ

之ヲ 面責シテ 直ニ 天實 假ヤス 三井氏ノ 一族 皆門ニ入リ

業ヲ学ブ實政

四年 三十一

子<sup>子</sup>疾病アリ三井氏ノ族来リ訪リモ

ナシ廬菴病癒テ深ク其殊ヲ悟リ怒リ書ヲ題リテ

文ヲ絶ツ三井氏罪ヲ謝スレバ終ニ可カス云子初元

年七月十一日没ス(距今百年許)年七十九廬菴ノ詠

歌ニ流ルヤ才氣秀拔右今ノ諸体ニ出入シテ其自

田ナリ多ク其比ヲ見ズ世人称シテ平安中興ノ良師

ト云フ

三井の祖廬北のものを天中トテ何故みくらむをいぬは

人の世のやうくさ葉みれくつゆの風をまらまの

ひかりけりけり

の白幽仙人ハ書家ナリ常ニ金剛經ヲ誦ス石川大山

ノ師友ナリ僧白隱怪ニテ詰ルニ唯長生ノ法ヲ

告ルニ白幽常ニ巖殿上ニ坐シ傍ラニ卓一基ヲ置

キ上ニ老子經ト金剛經アルニ其筆跡見タ稀

ナリ偶アルモノハ八分字ナリ筆法超凡ニシテ字ニ仙

境ノ人ノ筆跡ヤ此ノ如シト思ハル實永六年八月

九日寂ス其ノ享年長壽ニシテ齡數ヲ知ラズ身ハ

云ク或百歳ナリト身ニ云ク實ハ其寂年詳ナラス

實永六年トナスハ白川ノ山中ヲ去シ年ナリト云フ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

陵墓

後二條天皇 北白川陵

本村ノ西字追分耕田ノ中ニアリ  
陵上ニ古松ニ株アリ 石段ノ上ニヤシ

一ト丘アリ 呼テ車塚ト云相傳フ 天皇聖事ノ輦ヲ埋ルル  
ナリト

道周法親王墓

後陽成天皇ノ皇子

字房正ニアリ

道見法親王墓

日上

ワリ

道祇法親王墓

後西後天皇ノ皇子

ワリ

道尊法親王墓

日上 口上

以高親王ハ 聖高院ノ寺務タリ

忠養親王墓

中宮ノ皇子ノ皇子 字在ノ皇子ニアリ

*Handwritten notes in smaller characters, including names like 道隆, 道隆親王墓, 中宮ノ皇子ノ皇子, 字在ノ皇子ニアリ, 聖高院ノ寺務タリ, 以高親王ハ 聖高院ノ寺務タリ, 道尊法親王墓, 日上 口上, 道見法親王墓, 後陽成天皇ノ皇子, 字房正ニアリ, 道祇法親王墓, 後西後天皇ノ皇子, 道周法親王墓, 後陽成天皇ノ皇子, 字房正ニアリ, 道周法親王墓, 後陽成天皇ノ皇子, 字房正ニアリ.*

翁ハ和歌ノ達人ニシテ 勤王家ナリ (一種ノ奇人ナリトモテ)

白幽仙人ノ石窟 瓜生山下凡 所ノ山中宇大龜

谷ニアリ 仙人ノ隱栖スル所ナリ 石川丸山帝ニハ仙人ヲ慕フト  
モテ

瓜生山 村ノ東方ニアリ

勝軍地藏ハ瓜生山顛ニアリ 地藏菩薩ヲ安置ス

原ハ東ノ山顛ニアリシヲ 宝曆十二年此ニ遷坐ス

後光嚴天皇 而宇 延文年間ノ創造ナリ 其後

延寶年間ニ 道見法親王 此院室ニ在任

ノ頃 痘瘡除ノ事ナリ 信心ノ輩ニ 授與シ玉ヒシ

ヨリ 病疫ヲ免ルモノ サナラス 今此尊像ヲ

*Handwritten notes at the top of the page, including 永録年ノ是初, 義輝伯リ勝元, 一傳ニ 城郭ヲ, 構ハ此地ニ 聖宇マ, シモ云*

拜スルニ頭ニ畢竟空寂ノ甲ヲ戴キ身ニ隨求陀羅  
 尼ノ鎧ヲ着シ左手ニ發心修行ノ幡ヲ持テ右手ニハ  
 惡業煩惱ノ軍ニ勝ツノ劔ヲ執リ玉ヲ蓮華ニ味  
 経ニ勝軍地藏ノ深秘ヲ説玉ヘル中ニ軍陣ニ向フニ  
 敵ナキ一辟言ヘ秋ノ草ノ風ニ靡ゲカサリ誠ニ五濁深重  
 ノ衆生ヲ濟度シ給ヘル悲願廣大ナル故ニ斯ル威猛ノ形  
 ヲ示シ玉フ所ノ靈像ナリト  
 ○北白川宮橋跡 氏神社ノ方ニ當ル  
 当所ニ維新前迄北白川宮而在住ノ地ナリ  
 今、耕地トナレリ

四方百八十五  
 草裡市科

近里砂礫ヲ之  
 一橋梁ニ高シ  
 土基基ニ高シ  
 水物不恒ナリ

○ 柳ノ宮  
 中村

地味土色近里砂礫ヲ之ヲ見覺中等  
 橋梁ニ高シ水物不恒ナリ

中村郷又ハ栗栖野ト云フ  
 当村ハ下鴨大社ノ神人ナリ葵祭而蔭祭ニ奉仕スルハ  
 勿論下鴨ノ諸役ヲ勤メタリ依テ維新前迄ハ公儀ノ人  
 夫傳馬等赦免ナリ男子出生セハ一ケ年玄平五斗宛馬年  
 當レテ之ヲ受ク

祭神  
 豊文白鳥

不登  
禁裏  
所領

夫園馬者... 昔村... 中村...  
夫園馬者... 昔村... 中村...  
夫園馬者... 昔村... 中村...

花園村

旧名... 禁裏... 所領

○本村 東ハ山嶽ヲ負ヒ北西ハ長谷中、岩倉  
ノ各村ニ接シ南ハ高野村ニ文ル地味ハ具色落  
黒砂礫ヲ交フ稲粱ニ適 東北部ハ赤色ニシテ  
桑茶ニ宜シ水利充分ナラズ戸数 合  
任民農ヲ以テ本業トナシ亭方ヲ採薪ニ従事ス

花園ノ名ハ古ハ右大臣清原夏野公ノ別荘ニヨリナリ  
其地初ハ今ノ妙心寺(高野郡)ノ地ナリ公其處ニ於  
テ園池ヲ開キ諸花ヲ愛セラルヲ以テ花園ノ右  
大臣ト稱ス然レ其後花園天皇彼地ヲ取王ヒ  
ラ公ノ裔孫良枝ニ此地ヲ賜ル仍テ花園ノ跡  
アリト云フ

此は古神なり  
其神名ハ  
不明ナリ

此は古神なり  
其神名ハ  
不明ナリ

此ノ神ハ古神ナリ  
其神名ハ不明ナリ  
其神ノ由リハ不明ナリ

夫ノ神ハ古神ナリ  
其神名ハ不明ナリ  
其神ノ由リハ不明ナリ

此ノ神ハ古神ナリ  
其神名ハ不明ナリ  
其神ノ由リハ不明ナリ

中林  
此ノ神ハ古神ナリ  
其神名ハ不明ナリ  
其神ノ由リハ不明ナリ

旧名ハ古神ナリ  
其神名ハ不明ナリ  
其神ノ由リハ不明ナリ

此ノ神ハ古神ナリ  
其神名ハ不明ナリ  
其神ノ由リハ不明ナリ

此ノ神ハ古神ナリ  
其神名ハ不明ナリ  
其神ノ由リハ不明ナリ

○白神  
此ノ神ハ古神ナリ  
其神名ハ不明ナリ  
其神ノ由リハ不明ナリ

長谷村ニアリ  
長谷ノ條ニ記ス

○田中神社  
村ノ東方ニ在リ  
三鎮坐

祭神  
天照皇太神  
豊受皇太神

三竹堂録

○三代堂録曰貞觀五年五月二十二日敕遷山城國

廣幡神田中神於愛宕郡伊佐禰里以舊

社近汚穢也ト伊佐禰ハ今ノ花園村ナリ

○辨財天社

例祭 九月九日

○妙見社

○長栄菴

禪宗臨時派相國寺

本尊

天正年間創立ノ開基僧名不詳

○西來寺

禪宗曹洞派東京深川

本尊

觀音ノ菩薩 知證大師作

開基并ニ創造年月不詳萬治中傳隱元中

奥ノ後衰頽ノ天保七年傳機頓雷岳等再

造ス

○當寺ノ五百羅漢

年間ノ住持了真和尚ノ

勸進スル所ナリ



此所ニ在リ  
其地ニ在リ

昔ノ地ニ在リ

夫ノ地ニ在リ

此ノ地ニ在リ

此ノ地ニ在リ

○市所

是即湯原良枝ノ山莊ノ地ナリ今ハ

此ノ地ニ在リ

○往古

竹林菴

田壽菴

慈光菴

光雪菴

慶臨菴

西光菴

○龜山

氏神ノ所旅所トナス

村ノ南方田畠ノ中ニ在リ

○吉田出原守秀之墓

白ハ弓術ノ達人ナリト云フ

墓碑ニ刻シテ在リ

氏ノ子孫ハ山端町ニ現存セル丹戸集ト云フ

果シテ在リヤ

ト、キノ地

三竹堂録二日 貞觀五年五月二十二日 敕遷山城國

廣幡神 田中神 於愛宕郡 伊佐禰里 以舊

社 近汚穢也 卜伊佐禰 今花園村ナリ

○辨財天社

例祭 九月九日

○妙見社

○長宗菴 禪宗臨時派相國寺

○北白河城趾

○峯坊

○牛石

○駒岡

○志賀山

○白川

源後トシラ小色石ニ詔リ 樹本表並往法ヲ掩蔽初シ四ノ光目京

頗ル幽寂ナリ東方ニ中越アリ 比處ノ名高寺ハ此ハワレテ何程ナリ

ニハナリ山中ニ鐘ニ至レハ山崎近レノ國境ナリ(白川村ヨリ二里半)ニ井ノ入レ

ノ鐘ニ志賀ノ御内ニサツハレ 琵琶湖ノ川色ハ一眺ニ集リ眺望ニハナカ

ナシ 一羊腸ノ道 往來ヲ數下レハ坊本村ナリ

北白河城趾  
峯坊  
牛石  
駒岡  
志賀山  
白川

妙見社  
長宗菴

○忠仁公ノ亭

此所ニ任玉ヲ故ニ河原ノ大臣ト號ス

○貞信公ノ亭

此白川ニアリ白川殿トシテ今且旧跡ヲ詳カニセス

○大細言公任ノ亭

白川ニアリト云フ今且旧跡ヲ詳カニセス

○御所ノ墓

○大細言公任ノ亭

乙任公集  
都出ていつか  
きぬらん山ざとの  
もみぢ葉見れば  
秋暮にけり

春きてぞ人もといけ  
山里ハ花こそやどの  
あるじふりけれ

をいかにとせりてき  
つれどね夜の間に

春ハヨヨリ  
ざり見

白河の花をぞ思ふ  
雨ふればちよにも  
あらで色やヨサ  
らん

拾遺

むすぶ手の聲ににこり山の井のあかでも人にわかれぬ哉

仁貴之

○白河東ハ山嶽ヲ負ヒ青松繁茂シ白川ノ流ハ

深クトシテ村ノ中央ヲ流ルニ氣情軽タシテ情清シ

晚日景ヲ瓜生山上ニ探ラシテ疎霞ハ東山ヲ罩

テ静ニ帰鴉友ヲ呼テ喬水ニ移ル時明月

ハ如意ニ嶽ニ昇リ山川白銀ヲ布クカ如シ村童

草ヲ刈テ家路ニ帰リ樵夫錦ヲ採テ林中

ヨリセツ嗚呼人世齷齪トシテ侏利ヲ一段後同ニノ草ハ名譽

ノ奴トトナラテハ東西ニ狂奔スルモ未夕西門テハ

景ト口<sup>致</sup>機ヲ理會セサルモ欲曰ク<sup>機</sup>性ノ未至ラザルナリ

○花童、乙女 当村ノ婦女子未明頃身月ヲ踏テ

京都ニ去テ<sup>斷</sup>菊、鶏頭、椿、松枝、其外四時

折ル、花ヲ粥鬲キ已、刻頃歸家ス(花ハ田疇ニ

培長ス)

此艱難、乙女體格勇壯ミシテ真率ナリ花

ヲ愛ル、詞朝風ヲ搖シ新聞配達ノ夫ト

具早キヲ争フ

○物産 白石 西風 新 幸福

北白川寮特ニ名高知山村及半日岩山院ニ石燈籠

川手水鏡ヲ始以建築用石材ヲ製置諸方ニ販賣シ大

佛前村院ニ在リ後元和二年丙辰信長河川手ニ忠伏見

ヲ白川ノ流急駛<sup>ナリ</sup>其ヲ利用シテ彼處此處ニ精

川米水車及伸銅水車ヲ設<sup>テ</sup>業<sup>ニ</sup>甚盛ナリセラル

勝軍山城壘 字云信軍山ノ頂ニアリ

享福年中内原慶七之ヲ保ツ三好、何々本必争ノ地ナリ

永祿元年一月、有義輝公細川晴元之ニ據ルニケ

今、積郭、秋隱並尚存ス

景、口禪、理會、  
致

○花堂、乙女、  
京都、  
折、

米、  
白川、  
自、

手、  
自、

北白川宮跡  
字外山、  
川宮下、  
佛妙法院、  
三十九、  
川宮、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

勝軍山城墟  
字元信、  
亨、  
永、  
今、

景山口権... 聖護院道隆僧

心抱寺趾 瓜生山ノ東村ニ在リ

西ノ草井古村(今ノ古高村)源光菴末ノ禪刹ナリ

Handwritten notes in vertical columns, including '瓜生山ノ東村' and '源光菴末ノ禪刹ナリ'.

○照高院

往昔 大佛妙法院ノ隣ニアリシモ寺域狹隘ナルヲ以テ

秀吉公 桃山ノ別殿ヲ寄進シ此地ニ於テ建立セシメ

同時ニ寺領千石有ニ數多ノ山林ヲ附加シ代々親王方ノ

所任持ナリシ寺ナリ 道是老法親王ノ代ヨリ照高院ヲ

聖護院ノ兼帶ト定メラレタリシヲ維新ノ際寺號

ヲ廢シ更ニ北白川宮ト稱シ能仁親王ヲ所當

主ト定メ玉旨能仁親王

Handwritten notes at the bottom of the page, including '浄土宗' and '本尊'.

聖護院道隆僧 正ノ所ナリ僧正 彼法務ヲ辭シテ隱 退ノ居トセリ 兼照宮伏見城ノ 松ノ下ヲ賜ハリテ引移 之ニ再建セシメ道是 法親王修補ヲ加テ 隱居シテ聖護院ノ 兼帶ナリ

心悅寺趾 山生山人東林隱居  
主ノ遺業を承けて(一) 淨土宗末ノ得刹ナ  
ク爾レ更ニ北白ノ京ノ林ノ第ニ縣王ノ御  
聖蹟所ノ遺帶ノ云々(一) 聖蹟ノ御寺址  
御所ノ寺跡ノ云々(一) 遺業ノ山林ノ所ニ於テ縣王ノ  
御所ノ跡ニ一區ノ遺蹟ノ云々(一) 此ノ遺蹟ノ  
御所ノ大毎寺ノ所ノ遺蹟ノ云々(一) 此ノ遺蹟ノ  
○御所ノ所

此ノ遺蹟ノ  
御所ノ所  
御所ノ所  
御所ノ所  
御所ノ所  
御所ノ所  
御所ノ所  
御所ノ所  
御所ノ所  
御所ノ所

田中村

○田中村ハ高野山ヲ隔テ下鴨村ノ東ニ  
アリ南ハ京都吉田所ニ接シ東也ハ白川村  
一茶寺村ニ境ヲ元敷 人口約千餘ノ母  
村内ヲ區分セハ左ノトナク得日 茶山ノ御  
田中本郷、高野川原新田、(阜ニ新田ト云フ)  
柳、百可遍  
○干菜山安養殿光福寺 橋ノ東ニ下鴨ニアリ  
安養殿寺ヲ移ス 淨土宗末恩院末  
本尊 閉目ノ阿彌陀佛 密宗念佛ノ本尊

世坐者ニ是ナリ  
不且砂礫ヲ含  
色ハ概シテ深  
新菜畑見  
之ニ適シテ  
茶ニ適セズ  
新川村不便ナ  
具高野川原ニ至  
テハ砂礫殊ニ多  
シ是往古高野  
川ノ流域ナリシニ  
ヨル也ト云フ  
生ニ適コロ

南基 宗心和尚

宗心和尚ハ明智光秀ノ<sup>後</sup>高宇津重兵衛宗度子

山跡ヲ干菜山ト云フハ文録<sup>祿</sup>二年二月豊臣

秀吉公鷹狩ノ節口寺ヲ以テ体息所トナス宗

心公禮ノ為干菜拾把ヲ携ヘ公ノ<sup>身</sup>館ニ至リテ

献シケルニ大ニ<sup>其質は撲ヲ境ビ</sup>満悦セキハ與フルニ干菜山ノ跡

ヲ以テスト其安養殿ト名ツルハ惠心僧都ノ母

安養尼<sup>口地ニ</sup>草庵ヲ<sup>遺</sup>營リ住居アリレニヨル

又當寺ハ<sup>寺名ニヨリ</sup>六齋念佛ノ本寺タルベキノ免許ト

陣太鼓四個(斗個ハ金筒)トヲ賜ハリ<sup>敵</sup>味方

ニ論ナク陣没ノ諸靈得脱ノ為念佛修行

セシメ<sup>ラレシト</sup>三ノ<sup>モ</sup>

什寶

市乃吉公ノ木像 坐像 二尺五寸 寺體

同公<sup>鷹</sup>狩ノ画像 傳近江前司藤原元信筆 寺幅

庭砌 臥牛石 諸眉石 石山石等アリ何レモ

豊公聚樂ノ第ヨリ移ス所ナリト云フ

ノ受取<sup>即</sup>役付 光福寺ノ南ニアリ

元ハ下鴨村ニアリシヲ明治十年 月此地ニ移ル



石りの免許アリトあり

南山

什宝

○長徳山知恩寺ハ浄土宗鎮西派の本寺ノ一ナリ

百万遍ニアリ 俗洋ニ百万遍トナリ

本堂刊師堂 田光大師 法然上人ノ像ヲ安置ス

本師堂 本尊 観世音菩薩

勢至菩薩 本尊 勢至菩薩 運慶ノ作

焰魔堂 焰魔王ノ像

法性寺 日蓮宗本國寺未

元相模国箱館八景ニアリ 貞和元年乙酉二月 京都七条ニ移ス

四轉三火災ヲ経テ 元禄六年癸酉二月 此地ニ移ル

地正定寺 水立像 智證大師作

慶長年中僧唱譽 京都寺所ニ出川ノ地ニ構立 徳大

災ニ罹リ 元禄五年十二月 此地ニ轉入 宝永年中僧道

山中奥スル

常林寺

開基 魚堂

天正年中開創

長徳寺

開基 牛廊

慶長八年長谷川宗仁建堂之初京都寺川廣小路より寛文十二年此地に徙轉す

延命山本願院福藏寺

浄土宗

俗二田中ノ地藏ノ形ニ  
靈驗著シキヲ以テ恭詣者多シ

明治六年

独立ナリレモ

同年

知恩寺

本尊

地藏菩薩

二重厨子入立像 智證大師作

開基

智證大師

什寶

地藏菩薩 木立像 智證大師作

二十七年四月臨時全國寶物取調委員長より鑑査状

ヲ受ク

百萬遍珠數 智證大師作

地藏菩薩立像 智證大師作

初ノ天台宗ニ屬シ  
佛田珍(智證大師)開ク  
天正中法原中  
興シ寛政十  
火災災ニ罹リ  
又政三平法嚴  
和名再造

日向堀子門 本堂南門ナリ鷹司家別業ニカリシキ  
明治二年口家ヨリ此寺ハ市寄附ナリ元ハ檜皮葺ナリ

妙説庵 禪宗天寧寺ニ屬ス

本尊

開基 妙説庵 八門

文中攝造 初ハ浄土宗ヲ創シ元文二年ハ今ノ宗ニ改

浄山妙菴 日蓮宗 紀伊郡深草村瑞光寺末

佛尊寺 田中本師ノ中央ニアリ倍ニ

田開基地蔵堂存ス

開基 地蔵菩薩 立像 智證大師作

守飯寺

僧念光 元和元年創卓 淨土言ヲ以テ開基トス

祖

此寺再興ノ事  
天保三年開基  
八門ノ開基  
開基ノ地蔵堂  
開基ノ地蔵堂  
開基ノ地蔵堂

○<sup>宝山</sup>無碍光庵

禪宗相國寺末

元二平上宗ナリトシテ

本尊

元皇 永願和尚 延寶年日、草創 文化年日 珉山和  
尚中奥ニ今ノ宗ニ改タム

○田中明神ハ田中本郷ノ東方ニアリ村社ナリ

祭神 大國主命

稻田姫命、事代主命  
倉稻魂命、猿田彦命

例祭 十月廿三日

新編宮内省御祭所式目録卷之八 田中明神ノ事

新編宮内省御祭所式目録卷之八 田中明神ノ事

○波爾之神社、下鴨河祖神社ノ境外境

社ニシテ新田街道疏水橋断ノ北ニアリ新

田ノ氏神ナリ俗之ヲ赤ノ宮トシテ

祭神

例祭

由緒

石以記其來歴云

境内ニ數株ノ櫻アリ花時行人足ヲ駐ム

○開墾來歴記 赤宮ノ境内ニヨリ明治

三十二年五月ノ建造ナリ其記ニ曰ク

山城壹反名郡高野川東岸一帯地称高野河原

往時水流横奔破磧連直一旦漲溢人馬不得

行寛文中大坂商人豊後屋又兵衛者偶過此

慨然起開墾之志時 後水尾上皇將幸修亭

院離宮勅造道路又兵衛豪俠好義乃請投

私金任其事官特許之於是又兵衛携帶

其次子又四郎至又與近村村至我農六之丞

勘右衛門傳右衛門三郎兵衛謀俾協力身操

版鋤以十一年五月起工至九月告成官嘉其功

賜路左右荒蕪地賞之衆喜各投資開墾

後屢罹水患而辛苦經此得墾圃數十頃未

幾四畝皆他徙又兵衛姓武野氏家系連綿相

繼至今二百二十九年其子孫尚存居民追年繁盛

增至百餘戸而其始定自干又兵衛等六人ノ我使

心村民恐年久其事湮滅相議卜地於村內建

石以記其來歴云

明治三十三年五月

伊豫近藤元粹撰文  
貴族院議員後三任子爵伏見宮足家親王書

○此邊ヨリ白川村一帯寺村ニ至ルノ間ハ廣田  
丸田圃ナリ菜花最盛ノ中杖ヲ畦踏ニ  
曳ケテ馥郁タル其香衣袂ニ満ツ

○牧場 柳田中本郷、新田等ニ牧場アリ採取  
スル牛乳多量ナリ

○桃林牧場 ○之一牧場

○製紙場 田中本郷、北田圃ノ中ヨリ近年ノ  
創業ニシテ入田徑ノ入興出林等ニ製紙場アリ

○學圃堂  
○三木山茶圃

○鷹司大浴ノ舊跡 字樋ノロニアリ

○徳大寺侯爵家ノ別業 字岡田ニアリ

○堂ノ後

○ 談合、杜 氏神社ノ北ノ方 所許ニアリシモ、稿カ何明

神ヲ祭ル 明治維新ノ後氏神境中ノ移ス儀ニ團

子ノ杜ト云フハ誤リナリ

○ 石川丈山茶席

○ 學圃堂

○ 本村ノ舊家渡邊氏ノ邸内アリ 同家ノ祖先ニ蘊

菴云羽ト云フモノアリ 石川丈山ト 友トシテ善シ相往

○ 來シテ 詩書自ラ樂ム 此堂名ハ丈山先生ノ撰フ

所ニテ堂ノ託ハ丈山ノ姪平外ノ書ナリ

Handwritten notes in the top margin of the left page, including the characters '山' and '丈'.

Main body of handwritten text on the left page, written vertically in columns. The text is faint and partially obscured by the binding.





祭神 西殿

天市主神

高御產巢日神

神產巢日神

天常立神

國常立神

伊邪那岐神

伊邪那美神

志那都比古神

加奈夜麻彦神

豐原野神

宇麻志阿志訶備比古庭神

意智斗能地神

火之迦具都大神

火之迦具都大神

波南夜須姬神

宇比地近神

水波能賣神

角檜神

東殿

天照皇大神

日夜見神

聖天忍穗耳尊

豐受大神

天度火瓊杵尊

天多力男神

天度火比見尊

天宇須壹神

武鸕鷀尊

神武天皇

鴨野祖神

日本武尊 平野白身神

神功皇代 八幡大神

例祭 十月二十日 神輿二基

極ノ馬場ニ於テ贊馬アリ

相傳ノ天祿二年日融天皇ヲ勅立ニ係ルト

大和皇代

大和明白神祭禮ノ日午之刻 時辰

大和國

大和國

大和國

〇寶相院 天台宗 寺門派ノ大本寺ナリ

一本尊明王 傳智證大師

一開其淨基 傳四珍(智証大師ノ宗祖トス)

向<sup>基</sup>祖淨基ハ鷹司家ヨリ出テ任持セシメテ

門跡ニ准セラル南後大抵攝家ヨリ入院スル

ヲ例トセリ

寺寺古ハ真十八個ノ塔中ヲ有シ達運旺盛ナリシ

ト云フ

後ハノ松樹樹齡大倉トシテ翠滴リ前面ハ比叡ノ大嶽ヲ望ミ

日本武尊

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣

十月二十日

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

多孝ノ寶物

一 不動明王像 一幅 傳智證大師筆

一 彌勒新羅智證像 一幅 傳智證大師筆

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

御衣（御衣）十月二十日 神樂二卷

○岩倉公閑居，地

贈太政大臣後一位大勳位岩倉具視公，具堯十世ノ孫

ニ具慶ノ子（實ハ堀川前中納言康親ノ第二子）幼名周九

ト申入公ハ明治維新，大元勳ニシテ具皇室ト國家ニ

於ル借功ヲ列衆多ノ知悉スル所ナリ公勅勸身

ヲ正氣ヲ養フ事此地ニ閑居シ友山又ハ村鶴ト號シ山水

風月ヲ友トシ吟詠以テ自ラ娛マル度應三年正月

今上踐新ニ及シテ勅免セラル南後費去ニ至ル萬機

ヲ日翼賛シ赫々ノ功勳史乘ニ炳然タリ  
明治十六年七月廿日書  
年五十九

安子 田中 西園 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

田中 晴軒 田中 晴軒

○櫻馬場

南庄丘百間 此地櫻花樹多ク春風駘蕩、俛に至る  
櫻花爛熳トシテ 女ヲ競ヒ 螢蝶枝上ニ舞フ 席ヲ展  
テ一日ノ清旌ヲ試ミル蓋云上ノ快事ナリ

○藤房卿ノ髮塚

御初ノ名ハ惟房權大納言宣房ノ長子  
ナリ後醍醐天皇ニ仕テ在大井ニ任セラレ參議ヲ歴テ中納言ニ至リ謀ラ  
正二位ニ叙セラレ元弘元年北條高時兵ヲ遣遣シテ京師ヲ犯サントスルヤ佛  
帝及神皇ヲ護リ擁シテ宣置ニ至ル後塩釜高負ノ里ノ馬ヲ帝ニ獻ス  
大ニ之ヲ諫ム  
宣房卿尋行ラシレバ人ハ今朝近ハ是ニ御坐候ツルガ行脚  
ノ所志トテ何地エヤラシ御坐サト云テ任捨タル菴室ヲ見玉ハ

拜藤房言ヲ藤房  
埋髮塚  
東山湯  
里頭非是不勝稽  
難前道不用意原  
王上終飯財手  
空理由同念長心

○紫雲山大雲寺

住持ツクツクヤトミウキ世の人といふ嵐の社のね  
紫雲山大雲寺  
平尊聖觀音 立像長其寺 行基作  
業岩倉十一面觀世音ト称シ 有名ナル堂宇ニシテ眼  
病ニ靈驗顯赫ナリト云ヒ

○開基 眞覺

智辨僧正ナリ  
圓融天皇ノ勅願ニヨリ此地ヲトシ 伽藍ヲ造營シ寺  
領ノ庄園ヲ寄附シ寺跡ヲ大雲寺ト賜フ其後  
天文十五年(距今參百五拾有某年) 細川國廣本寺ニ於

古寺ニ文慶  
恒久、四慶寺  
高僧アリ

桓山天皇ノ安置佛  
後元大臣時平之ヲ  
感得ス

△晩年山衣(食)  
 是年一庵寺ヲ修メ  
 ラ辰リ又一庵ヲ山  
 腹ニ作り天洞窟ト  
 名ケ又シテ自ラ稱シテ  
 天保九年二月廿  
 日歿シ年九十

天山小主膳(修理子) 挑戦シ諸堂焼亡ス本尊(本尊) 本尊(本尊)  
 幸ニ災ヲ免ル寛永十八年本堂再建セリ(本尊)  
 大聖寺ノ額ハ詔ヲ奉シテ佐理卿ノ深筆ナリト云フ  
 今堂六向四面ニ実相院尊尊ノ所再興本尊ノ厨子ハ  
 東福内院之所富進ナリ

○岸

岸駒姓ハ佐伯岸氏駒ノ異名ナリ又昌明ノ危ク字ハ直也  
 華陽 同功館ニ可觀堂・天洞窟等ノ數部アリ加州金澤ノ人  
 ナリ知シテ畫ヲ好ミ四方ニ周旋シテ後京師ニ駐マリ有栖川宮ニ在ラ  
 雅樂助トナル而朝庭ノ官人トナリテ越前介トナリ屢々官中ノ画事ヲ  
 兼當ス天保七年程勤ノ功ヲ以テ藏人所衆トナリ往々任セラレ  
 越前守ニ轉ジ駒ノ沈南頓ノ画凡々慕ヒ而諸宗ヲ折衷シテ自ラ  
 一家ヲナス名是海内ニ振リテ

○智弁谷

智弁水 在堂西智弁橋正ノ設ケル所ナリ

○鐘樓

在堂東ノ後水尾天皇御再興

○智弁塔

新修塔ノ茲莫ク由餘所ノ也所ニ數シテ

○紫雲山獄

○紫雲洞

○無目無

○新羅明神社

○龍王軒塔

護王神社

無目佛

萬年密

東福門院御施覽ノ時御所、此所ニ建シノ王ハ  
ルニ至テ髡ケ玉ヘリ

福善寺、本林 村ノ西北ニアリ凡白坪ノ地

一言主社

靈應ノ事人口ニアリ今社東福門院ノ白王女

三宮ノ所鎮ナリ

新倉

文島ノ事...

八坂

癩狂院

...

...

福善寺  
美任寺  
聖僧庵  
帝親寺  
...

本町寺  
宗弄院  
二蓮寺  
觀音寺  
社尊寺  
澄光寺  
福昌院  
正祐菴  
義法寺  
藥師寺  
中野菴

而殿址  
村西北三丁目  
尾天白里ノ白里女堂  
殿ノ址上ニハ九六有  
三十坪ノ地

〇龜山

〇経墳 石座ノ東人家ノ西竹林ノ中是小岩藏ト  
秘スル経墳ナリ

〇是心菴

本尊  
文禄元年僧春隣ノ具ク

〇浄念寺

寺ノ信行寺未

本尊  
慶長二年僧無子用甚

〇専修院

入ノ浄土宗報國寺本尊ノ部ノ皇女

本尊

月基僧 涌宗寺 文禄四年ノ草創ナリ

高田

陶然トシテ般ヲ忘ル

〇兼次法親王总卷

大雲寺ノ堂後ニ有リ高而深ニ白土カニ

皇子ノ十八年ノ御患疾ニ于其地ニ移住セリ且由七拾間  
地計ナリ其地ノ細空ニ充テテ科ノ上ニ同地ニ有リ  
此處ニ有リ



淨觀寺

淨土宗京都府宇治郡

慶長十八年、僧惠珠の開基

心光院

淨土宗京都府宇治郡

白保二年、僧唯祥の開基

洞雲菴

淨土宗

元和三年、創立、開基僧名不詳

慈雲菴

淨土宗

應仁元年、創立、開基僧名不詳

### 本野村

○ 蘇我神社

○ 洞雲菴

本村、桓武天皇、平安京、古園都、際奈良より、陪從せしモノニシテ

元、萬野郡、<sup>本</sup>野村ニ居住せしモノ、土盤ヲ製スル、原料を乞ハシヨリ

○ 本村、土死、<sup>本</sup>野村ニ製ス

元皇年、巨与、此地ニ移住せしモノ、其時七拾間、而

地計ヲ下シ賜ハリ、印字ニ充テラレ、奈科ノ土ハ河原ニテ掘取

ノ權利ヲ天許可申スル、其時、<sup>本</sup>野村ニ在リ、<sup>本</sup>野村ニ在リ

草種 松茸

山名、陸奥  
水村、<sup>本</sup>野村

当村舊家 櫻本氏 九代 末宗 朝廷ノ所用ヲ承リ 上の  
御以下 所宗 殿クモナリ

○白神 安石 神社

例祭

○福荷 神社

櫻本氏

ニカリ 当村 移住 以テ ヲリノ 鎮坐ナリ

本村

幡枝 村

寛文八年七月

○田代 神社

○八幡 宮

祭神

田應 神

例祭

十月廿三日

相傳フ 寛平六年 勸請シ 平重盛之ヲ 再奉ス

櫻本 貴姫 社 其他 未詳 多シ

○大悲山 円通寺

田三 七ノ 孔 五石 年  
其 裡 由 所 分 ニ 許 領

其 他 諸 里  
三ノ 新 土 子  
水 利 毎 年

額大悲田通

後水尾天皇御筆

本尊

聖觀音

坐像三尺

定朝作

潮音堂

本尊 准服觀音

坐像

唐作

又西國世三所觀音ヲ安置ス

此地初、田光院文英尼公ノ宅地ナリ、尼公ハ園左

大臣基任公ノ女ナリ、禪刹寺ハナスノキ妙心寺實性禪師

ヲ開基ト為ス

後水尾院帝在位ノ時、而祈願寺

トナレ玉ヘリ

○田光院ノ塔

尼公ノ宅地寺トナリ、後堂後ニ庵

ヲ攝ヘテ居セリ

延寶八年七月、費ス

三猿堂靈泉庵

庭園ハ小堀遠州ノ作ニシテ

盤陀石ト云フ名石アリ

○專修寺

崇徳天皇御筆

本尊

向具

寛永九年、佛原了一开基ス

○雙林寺

日蓮宗本隆寺末

一开基

元禄元年戊辰、佛日賢一开基ス

長光院

淨土宗 明永三年廢寺

真蓮菴

事蹟詳す

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

地味、  
色法里世傳の考初年、通せられり

三軒、  
後、  
時、  
昔、

八瀬村

八瀬村、四境山嶽圍繞し中央ニ八瀬川アリテ

奇石怪岩ノ間ヲ流ルル也、大原ニ通シ南ハ高野ニ

通セリ 戸數

人口

八瀬元矢背ト書ス天武天皇大友皇子ト位ヲ

爭ヒ軍シ玉ヘリ天皇ノ軍敗レテ落玉ヲ片白王子

軍兵追ヒ奉リテ流矢天皇ノ背ニ中ル故ニ此地ヲ

矢背ト號スト云フ  
建武中八瀬ニ改メ矢背ノ阪、白神社ノ鳥居ノ南ニ片坂ナリ

天満宮、社

祭神

菅原道真乙

贈太政大臣正一位  
朝臣

川方計百七拾五  
主

林、  
他、  
地、

彼、  
新、

い、  
小、  
ふ、  
実、  
練、

例祭

五月十日

叡山法性房ノ阿闍黎尊意僧止此所ニ勸請

セリト云フ 此社建在ノ地ハ管神事ノ時比叡山ニ入テ學文ス

八王子ノ社

具往來休息ノ處ナリト云フ

身居ノ額

繼

妙傳寺

天台宗

山門北尾竹林院ノ末

本尊

如意輪觀世音ノ尊ニ畫ノ

開山覺法妙傳和尚

元和二年三月廿七日此處大智院ヨリ本寺ニ移ス

八瀬ノ雪中

羅山文集ナリ

雪裏山蹊難認橋

天風陣々碎瓊瑤

落梅君不

依樵遂

素笠檐聲須早消

御所谷

往古ヨリ此處ニ山王ノ祠アリ

御醍醐天

皇延元

如元年

尊氏

禁闕ヲ犯シ

車駕叡山ニ

幸シ

躡リ此祠前ニ

駐メ玉テ

村民駕ヲ護衛

レ奉リ

叡山ニ達スル

テ得依テ

此處ヲ

御所谷ト云フ

石碑アリ

山城國安富郡八瀬村御所谷有山王祠與氏神社  
相距二町餘而為其根社

御

後醍醐天皇延元元年正月足利尊氏入犯官軍防  
戰不克將幸比叡山避其鋒取途于八瀬駐蹕此祠  
待官軍之聚村人防禦 駕達延曆寺 勅復其

所

租以賞焉後祔其地曰御所谷之八瀬在比叡山下  
距京師二里村人勞王事久矣 歷朝行幸充駕輿

八間

丁至今為例明治十一年京都府令移山王祠于此  
畧謀建碑表之請余文余謂駐蹕之事  
史采不載然其事確實有據可信因叙其概

御

略係以銘銘曰 龍駕駐蹕 歲月既久

谷曰御所

龍駕駐蹕

歲月既久

明治二十六年八月

大勳位晃親王篆額

主殿助正五位勳四等宇田淵撰文

京都府屬岩本範治謹書

○甲淵

平治ノ乱ニ 信賴 義朝兵敗テ 八瀬大原ヲ過  
テ 近江ニ去テントス 時ニ 叡山西橋ノ 僧軍千束ガ  
碓ニ 関シテ之ヲ 拒ム 軍中 齋藤 貞盛アリ 僧  
軍ニ 謂テ 日リ 信賴ヲ 義朝<sup>以下</sup>京師ニ 旌テ 討死セリ 我  
等ハ 諸國ノ 耻武者 共ガ 耻ヲモ 知ラズシテ 妻子  
ヲ 見シ者 本国ニ 下ル者ナリ 討止テ 河ニカシ玉ハシ  
具足ヲ 欲セウレバ 之ヲ 獻セン 賴ハ 通國ヲ 許セト  
僧軍 之ヲ 諾ハ 貞盛又 日リ 貴軍ハ 大勢我  
等ハ 小勢ナリ 草摺ヲ 切ルモ 猶及ヒカタシ 投シ

○隨ヒテ 奪取玉トイハバ 僧軍 坐リトナシ 一隊ニ 集ル  
貞盛 甲ヲ 投グ 僧軍 群集シテ 之ヲ 斃ル 時ニ 信  
賴ヲ 義朝 尋馬ヲ 驅セテ 敵中ニ 乱入セバ 僧軍 大  
ニ 敬馬キ 潰走ス 云云 (古書ニ あり) 仍テ 甲ノ 淵トシテ  
○千束ガ 碓 甲淵ノ 北ニ あり 右手ハ 八瀬川ニ 臨<sup>瀕</sup>岸  
○高ク 殆ント 絶壁ナリ 左手ハ 巨岩 從立セリ 其危  
險 殆トスベカラズ

○此ノ 碓 千束ガ 碓トシテ 甲淵ノ 北ニ あり 右手ハ 八瀬川ニ 臨岸  
○高ク 殆ント 絶壁ナリ 左手ハ 巨岩 從立セリ 其危  
險 殆トスベカラズ

○ 観音石

○ 神子<sup>ガ</sup>淵

相傳フ春日神岩崇ヲ為ス一巫アリ之ヲ禱ルノ止マス巫愧テ其身ヲ沈ムト

○ 春日石

昔春日明神来ラ形ヲ現シテ此石ニ跨リ以テ菅神ヲ迎フト云フ

○ 八王子ノ社

氏神ノ翌ニ所許山腹ニアリ

祭神 日吉ノ社ノ中八王子ノ神ナリ毎歲日吉ノ

祭禮ニ当村ノ人八王子ノ神樂ヲ昇リ蓋シ故

アリナリ (明治四年後ハ口事ナシ)

○ 辨慶石

天神身辰ノ信ニアリ

傳エテ弁慶<sup>殿</sup>山ヨリ提来ルト信ニ脊較ヘ

石ト云フ

頑石一株看者疑 呼為弁慶到今遺 凡刀雨矢射 全倒 應似衣何立死時 羅山文集

○ 鬼ガ洞

天神身辰ノ前ヨリ八瀬川ヲ隔テ

西山ノ羊腹アリ

羅山文集ニ曰リ 洞口狭中洞高二丈強深三丈有

奇世祢酒顛童子自此洞徙於丹波大江山ト

云トアリ 愚考スルニ 上代穴居ノ遺跡ナラシカ

何レノ地カ紅葉ナカラン 然レ其身ハ遠ニ過キ身ハ近ニ失ス何



レ、地ケ、秋山ヲカランヤ、生流水ヲ欠クアリ、此村四方皆山  
秋天ノ霜、島木ヲ深メテ、紅轉々、紅流氷、透迤トシテ、山  
脚ヲ遠ルノ所、夕陽斜照シ、山燃エシト、欲ス、地地山氷ノ  
美趣ヲ羨タリ、

其後興癢一ナラスト、羅山先生ノ當時、尙未タ隆  
盛ナリシナランカ、明治維新前ニハ、秦川氏及ヒ他ニ一竈  
アルニ過キス、維新後、是ヲ顧眄スルモノナリ、全ク中  
絶ニ及ビタリ、生ニ明治二十六年ニ及ビ、洛外ノ四圍ニ谷  
且勝地ノ撰定ナリ、成リ大原保勝會起ルニ、當リ秦川  
氏具ノ壊滅ヲ歎キ、舊竈ヲ修築シテ、以テ客ヲ待ツ  
今羅山文集ヲ抄出シテ、讀者ニ供ス、

洛北三里餘有村曰八瀬、洵水流其前、西山圍而背

河流只一枝南與鴨水會尋途通若按踰山到陔  
海一村各為婚不知幾世黎氓死百戶俗朴皆椎筑  
身著木綿衣又服皮裘袴登山如猿狖耕田以牛馬  
伐木腰斧鑿拾薪手束把置石填塗泥戶戶貯竈火  
山中萌孽生入竈青已黑蒸氣似溫湯勞薪如炭墨  
豈有百霜藥何及一竈力頭風自茲癒不待陳琳撒膚  
汗由是廢廢生何發無用何晏餅入竈體早煖出  
竈心稍淨芙蓉伏火砂能除凡百病病已封青山  
見聖心不競我今旋此村村是我采地平生有何能辱  
蒙承恩賜兒子共同耒團團為嬉戲不負梨与棗

學我頗半識字一朝赴大原訪向平德子大原古蹟多  
止去此不遙向來我雖懶一欲吊惟喬時々在川上款  
立略約橋輿已暮到泉隴月照寂寥多

平德子者建礼門院也用田居在大原  
惟喬親王舊跡在焉

平德子者建礼門院也用田居在大原

林羅山先生ハ徳川幕府ノ儒官ナリ名ハ忠一ノ名ハ信勝字ハ子  
信四羅山ハ其稱ナリ先生生レテ神彩秀徹長スニ及ビラ英邁  
絶倫曠世ノ才ナリ帝國有數ノ大儒ナリ書冊ノ闕ハサルノ  
ナリ其撰著編纂スル所實ニ百七拾種以上ナリトナリ

○ 故免踊

○ 高野川ノ上流ハ頼川ノ下流ノ邊何處多シ初夏ノ頃川辺

ニ徘徊セバ急湍ノ外其聲甚可ナリ騷人<sup>士</sup>以テ作詩ノ料ト

ナスニ定ル

○ 高野川ノ上流ハ頼川ノ下流ノ邊何處多シ初夏ノ頃川辺

ニ徘徊セバ急湍ノ外其聲甚可ナリ騷人<sup>士</sup>以テ作詩ノ料ト

ナスニ定ル

○ 高野川ノ上流ハ頼川ノ下流ノ邊何處多シ初夏ノ頃川辺

ニ徘徊セバ急湍ノ外其聲甚可ナリ騷人<sup>士</sup>以テ作詩ノ料ト

ナスニ定ル

○ 高野川ノ上流ハ頼川ノ下流ノ邊何處多シ初夏ノ頃川辺

ニ徘徊セバ急湍ノ外其聲甚可ナリ騷人<sup>士</sup>以テ作詩ノ料ト

新  
材本  
...

川乃千乃五十五五五五  
 膳村、本連此  
 梅井、定、領、及、手  
 井、爐、安、坊、即  
 永、親、子、知、り  
 〇、所、謂、小、り、此、地、三、階  
 退、せ、ら、ん、一、元、平、九、年  
 二、月、薨、ス、壽、五、十、四

文、德、天、皇、ノ、皇、子、ナ、リ  
 母、ハ、更、衣、記、静、子、和、歌  
 ナ、善、シ、詩、ヲ、賦、ス、帝  
 深、ク、之、ヲ、愛、シ、シ、ト、雖  
 外、再、臨、成、良、唐、子、傳  
 カ、リ、ラ、決、セ、ズ、事、遂、正、  
 〇、貞、觀、十、四、年、秋、公  
 命、官、  
 祭、神、惟、喬、親、王

惟喬親王

梅ノ子  
 本、此、咲、即、姬、命  
 ナ、長、年、  
 名、子、也、  
 大、長、瀬、  
 光、樹、アリ

大原村

- 〇 大原村、之ヲ分ツテ八区トナシ曰リ
- 戸寺、上野、大長瀬、末延院、膳林院、
- 井出、野村、草生、
- 〇 波那志里社  
原大夫ノ社アリ
- 〇 惟喬親王ノ遺跡、上野村ニアリ  
法名素覺
- 〇 紀貫之ノ山莊、口村ニアリ  
古本此地ヲ一本移ト稱シ傳テ叙王  
 又前ノ箱田トナス
- 〇 御所内、口村ニアリ惟喬親王内居ノ處ナリ
- 〇 西方院、上野ニアリ延壽寺末、廢寺身リ不詳、

本尊

- 〇 開基、寂忍法師
- 〇 般若尼塔、口寺内ニアリ尼ハ開基ノ母ナリ  
他ノ遺教
- 〇 攝取院、大長瀬ニアリ  
攝取院、大長瀬ニアリ、功徳入自、歸、是、自、他
- 〇 本尊、阿彌陀佛、聖德太子ノ作
- 〇 開基、淨任法師  
開基、淨任法師
- 〇 此寺蛇道心寺跡、是即開基淨任法師ノ事ナリ  
法師俗タリレ時、是色ヲ好ム妻ニ妹アリ密ニ通ジ妻  
 怨ムト雖割スルニカナレ終ニ病テ死ス其靈坐忽々  
 小蛇トナツテ法師カ首ニ纏リ於此ニ其罪業ヲ

悟り剃髮深衣此地に住大專念佛云然執  
二回向之自障ヲ懺悔入彼靈解脫成佛ヲ為ス  
ト夢ニテ歡喜シ往生ノ素懷ヲ遂ルル地ナリト云ク

○真光寺  
本尊 釋迦佛 坐像五尺 行基菩薩作

○融通寺 淨蓮華院

本尊 阿彌陀佛 得慶作

開基 良忍上人 即聖應大師

寺寺ハ融通念佛ノ開祖ナリ天治二年ノ頃  
一距今七百六十餘年一洛陽ニ去リ是ヲ弘メタリト云フ  
融通トハ自稱ノ念佛他ノ功德トナリ他ハ隨喜  
シテ是ヲ修スルニ其功德又自ニ歸ス是自他  
不二平等融通スト云フニ基ク

○真山末迹院 天台宗

本尊 三尊 中央ハ藥師如來 左ハ觀音佛

右ハ阿彌陀佛 慧心作

開基 良忍上人

身羽天皇ノ丙午天仁二年ニ建立ス

融通寺ノ開基  
良忍上人ノ事  
天治二年ノ頃  
洛陽ニ去リ是ヲ弘メタリト云フ

計高屋上

羅漢橋 口院前、  
石橋ナリ昔此橋上ニ  
十二ノ羅漢現ゼリ故  
ニ口名アリト云フ

法生腰掛石

奥山ト名クルハ漢土天台山ノ西ニ大原奥山ト云フ地アリ  
天台ノ支山ナレバ此例ニ准テ踰ニシテリト云フ山門西  
塔ノ小谷ニテ往時ノ一百有餘ノ精舎アリトゾ  
○提井ノ堂内融院利本本房

手廻道ニ備有川事廻院ノ東西所ニテ遊良高カレセ  
向ニ身ニ高カク上ニ雲モ素纏一條巨巖ニテ麻子トテ西院キ  
下流流氷滲ルテ絶テ鼓々々ノ音ヲ聞カサルナリ音モトハ  
名ガリ九ノリ杉樹鬱鬱蒼呂川ノ岸ヲ蔽ヒ幽寂清涼  
快益々カ厚ク夏時暑ヲ避クルニ可ナリ

小野山 上野ノ東方ニ峙テル山ナリ昔藤原明

衡カ勝カ形音ナリ天下ニ甲タレノ地羽卒山頂紅林更ニ綾

錦也秋ヲ留テト云ハ此好景也ミシテ藤原敏行

紀母之文書著名ノ文人等皆此所ニ興

花月ヲ弄ハル地ナリ社名ナリ小野ノ藤原

鎌原川院

日取河津律川 音名ノ流ノ下流ナリ南ニ流ルヲ昆の

音名ノ流ノ下流律川南流於テ昆川ト云ヒ此ノ流ルヲ

律川ト云フ 溪流潺々ニテ院ヲ夾ミ櫻柳梢ヲ交ヘ

テ其岸ニアリ春秋ノ久良目京共ニ佳ナルヲ以テ川驩ノ十五

二節ヲ更ケリ

羅漢橋 口院前  
石橋ナリ昔此橋上ニ  
十二ノ羅漢現ゼリ故  
ニ口名アリト云フ

法生腰掛石

奥山ト名クルハ漢土天台山人西ニ大原奥山ト云フ地アリ  
天台山人支山ナレバ此例ニ准テ踰ニシタリト云フ山門西  
塔ノ小谷ニテ往時ノ一百有餘ノ精舎アリトゾ  
○梶井ノ堂内融院利本本房

手廻寺ヨリ南ノ山ヲ過テ西ノ山ニテ遠良高カレセ  
向ニ見高カク上ノ雲モ素纏一條巨巖ヲ摩キトテ西ノ山  
下ヨリ流氷瀝々シテ絶テ鼓々々ノ音ヲ聞カサルヨリ音モトハ  
名ガク九ノリ杉樹密討蒼呂川ノ岸ヲ蔽ヒ幽寂清涼  
快無クカラス夏時暑ヲ避クルニ可ナリ

小野山 上野ノ東方ニ峙テル山ナリ昔藤原明  
衡カ所立高キ天下ニ甲タル地羽卒山頂紅林更ニ綾  
錦也秋ヲ留テト云ハ此好景也ミシテ藤原敏行  
紀世ノ文ヲ著スルノ文人等皆此所ニ興  
花月ヲ弄ハルノ地ナリ  
ニ註ニ有テ  
ニ註ニ有テ  
ノ鐘捨藪  
大原向者ノ時熊谷蓮生師鐘ヲ初ニシテ法生上人

二供<sup>ス</sup>蓮性師曰り上人<sup>法敵</sup>二負玉<sup>對論</sup>の法敵ヲ

討殺サントノ用意ナリト上人之ヲ聞テ大ニ制セシカ

バ鏡ヲ口處ニ捨テシトナリ

○世和井水 律の川ノ橋東右ノ方ニアリ

<sup>孫集</sup>大系ヤセウガ水ニ寄テつくむせも枯ヤカクハ物以

○姫宮 祭神江文明神<sup>毒ナリトナリ</sup>

○**梶井**の宮

三千院 梶井ノ宮 天台宗

本尊 藥師如來

延暦年間僧最澄<sup>原山</sup>中堂創立ノ時奉

塔ノ南谷ニ於テ一字ヲ結構ス此本院ノ草創

トス貞觀二年僧承空清和帝ノ教ヲ奉シ

テ殿堂ヲ改築シ三千院曰融唐ト號ス掘川

帝皇子最聖親王ヲ皇孫相<sup>系</sup>ノ寺トナリ

天台三門跡ノ一ナリ且聲明音律ヲ統綜ス宮中

懺法講ノ時本院ノ法親王之カ導師トナリ

其梶井ノ宮ト稱ス<sup>近</sup>江國<sup>近</sup>江本村ニ梶井ノ

里ニ堂<sup>宇</sup>ヲ移スニヨル且協建長二年山城國

丹岡山ノ麓ニ移ス其後構定壯ナリ其傍白川ニ

移リ應仁ノ兵火ニ燼燼シ後此地ニ移リ又從夫ス



觀音坐像  
彌陀佛坐像  
不動明王立像  
如意輪觀音坐像  
不動明王立像  
一處山全而ノ屏風  
口山元表以前ノ狀ヲ觀ル  
二天聖動則年中對出下ノ屏ナリ

天正年中再興之ノ旨トモ往時ノ觀ニ復セムトシテ  
殿堂完麗ニシテ柱石亦不巧致テ堂ノ柱石  
天正三十四年ノ日替明旨野ノ所給ノ堂中  
一 二十五菩薩像 一幅 傳惠心僧都等  
一 未迎佛像 一幅 傳行年卿等  
一 善賢像 一幅  
一 執至菩薩像 一体

一 觀音坐像 日  
一 彌陀佛坐像 日  
一 不動明王立像 日  
一 如意輪觀音坐像 日  
一 不動明王立像 日  
一 處山全而ノ屏風  
口山元表以前ノ狀ヲ觀ル  
二天聖動則年中對出下ノ屏ナリ

善所院  
 天台宗 延壽寺  
 本所其長 中魚  
 未定法ニ至シ  
 蓮成寺  
 川上  
 慶和院  
 川上  
 宇道草津  
 川上  
 功法七年一月ニ  
 焼モス

鴨長明ハ賀茂社ノ氏人ナリ父ヲ長継トシテ賀茂社ノ禰宜也  
 ニ余天皇、應保年中從五位下ニ叙セラレ後鳥羽天皇、時  
 和歌所ノ官人トシテ嘗テ父祖ノ跡ヲ継キ社司ニ補セラレ  
 ニ事ヲ官ニ請タルニ叶ハザリハバ憤リテ薙髮シ大原ニ  
 退隱セリ云々長明和歌ニ勝レ管弦ヲヨクシ又老サ壯ノ  
 道ニ達シタリト

鴨長明の傳記

鴨長明ハ賀茂社ノ氏人ナリ父ヲ長継トシテ賀茂社ノ禰宜也  
 ニ余天皇、應保年中從五位下ニ叙セラレ後鳥羽天皇、時  
 和歌所ノ官人トシテ嘗テ父祖ノ跡ヲ継キ社司ニ補セラレ  
 ニ事ヲ官ニ請タルニ叶ハザリハバ憤リテ薙髮シ大原ニ  
 退隱セリ云々長明和歌ニ勝レ管弦ヲヨクシ又老サ壯ノ  
 道ニ達シタリト

鴨長明の傳記

善所院

天台宗 延暦寺  
寺司具云 中魚  
未定法ニ至シ

蓮成寺

川上

慶那院

川上

淨道草法

川上

功法七年一月ニ  
焼云ス

鴨長明ハ賀茂社ノ氏人ナリ父ヲ長継トシテ賀茂社ノ禰宜也

ニ余天皇ノ應保年中徑五位下ニ叙セラレ後鳥羽天皇ノ時

和歌所ノ寄人トナリ嘗テ父祖ノ跡ヲ継キ社司ニ補セラレ

ニ事ヲ官ニ請タルニ叶ハザリシハバ憤リテ薙髪シ大原ニ

退隱セリ云々長明和歌ニ勝レ管絃ヲヨクシ又老壯ノ

往生極樂院

本層 丈六ノ阿弥像佛

大観母子  
石 勢至菩薩

永觀三年花山帝ノ詔ヲ以テ惠心佛都ノ建立セシ靈場

ニシテ其構造ハ常行念佛堂ノ古式ニ依リ極テ立可巧ナリ

内縁ニ天井ナリ棟ヲ延ハシテ之ヲ覆フ此レ其具接ス

亦軒ニ至ラス天井ハ彩色ヲ以テ二十五菩薩ノ像ヲ繪

キ佛背ノ板壁ニモ同シク彩色ヲ以テ西界曼陀羅ヲ

繪リ共ニ惠心ノ筆ナリ戒壇ハ悉ク螺細ヲ以テ飾ル

往時光彩絢爛莊嚴華麗ヲ極メシ様想像ス

極樂院 善所院ニアリ惠心佛都ノ始母養良民ノ養

ニ傳ヘタリ今ノ百年昔昔霜ヲ経タレモ天高キ美術的

建築ノ種籠ノ籠多ク失ハク其後傳ノモ雅麗ニ有数ノモノナリ

ノ寶山院ノ墓

口所ニテ山院ヲ焼初レ羽ノ憤ナリト云フ

何ノ地ニ聖山院ノ羽ノ氏始メテ焼タリシ之羽ノ憤ナリ

善所院 極樂院 往生極樂院 本層 丈六ノ阿弥像佛 大観母子 石 勢至菩薩

以テ其名高シ

○護法石

支法 宝泉院 宣光院 普賢院 理覺院

○奥山勝林寺

長和二年、創立ナリ

本尊

阿彌陀佛

坐像七尺許

佛工、祖康成

ノ作ナリ

証據ノ阿彌陀ト稱ス

又室朝ノ作ト云フ

開基

寂原法師

一條元大臣雅信公ノ子

本朝高僧傳卷之五十抄録

寂寂原五大臣雅信原公ノ子也 俗名時信早誦門業聲稱

羽林御厭世相從池上自皇慶落髮出家學顯密法能搥器水

長和二年入大原山創勝林院六時行道感毘沙門天勅蓋隨後

臨終之時有紫雲覆牀之瑞云

詩ニナセリ 雙ノ詩 新清集ニ 明ノ選ニ

レカルニ 覺志不空ヲ論ズレバ 本尊相好ヲ隱

レ偏救空ヲ説バ 相好ヲ見シ 玉ヘリ 是即チ

中道實相ノ証明ニ立テ玉ヘルナリ 又文治二年秋

法坐上人ト山門ノ座主顯真法印及諸宗ノ

碩徳ト一向專修ノ向答ヲナセリ 其時法坐上

人ノ議論ニ於テ本尊光明ヲ放ケ玉ヘリ 而シテ

諸師皆法坐ノ義ニ伏シ 顯真モ忽チ專修ノ行

者トナリ 法泉房ニ任玉ヒテ 稱名念佛絶ストナシ

普賢 坐像

以テ其名高シ

護法石

調絲之類

長祿二年八月廿七日... 師林僧相世師... 我宗則曰大西...

本願真如...

証據ノ阿弥陀ノ跡スル所以

昔嵐山ノ清都<sup>傳</sup>平覺<sup>傳</sup>起<sup>傳</sup>同靜慮院ノ偏

教ト此如來ノ前ニ於テ佛果ノ空ニ空ノ義

論ヲナセリ雙方議辨清鮮ニシテ時ヲ遷ス

レカルニ覺志不空ヲ論ズレバ本尊相好ヲ隱

レ偏救空ヲ説バ相好ヲ見シ玉ヘリ是即チ

中道實相ノ証明ニ立テ玉ヘルナリ又文治二年秋

法坐上人ト山門ノ座主顯真法印及諸宗ノ

碩德ト一向專修ノ向答ヲナセリ其時法坐上

人ノ議論ニ於テ本尊光明ヲ放ケ玉ヘリ而シテ

諸師<sup>師</sup>皆法坐ノ義ニ伏シ顯真モ忽チ專修ノ行

者トナリ法泉房ニ任玉ヒテ補名念佛絶ストナシ

後

後鳥羽天皇陵

善胤法親王墓

盛胤法親王墓

承世法親王墓

那部神社

念佛寺

阿弥陀寺

慶長十四年三月  
佛淨土言創  
寺和元自奉西  
寺の佛信阿中  
白

是則如來、証據ニ立至レテ此名アル所以

實光坊 實光坊、本尊、去、因、於、正、八、月、

後鳥羽天皇、而、塔、同、各、實、光、坊、中、ニ、アリ、

法華常行堂 法華常行堂、正、正、八、月、又、文、治、二、年、

本尊 聖觀音 惠心僧都、作、ハ、是、由、

袈裟掛石 傳云、皇慶法師大原山ニ居住ノ時、常隨ノ護法童子師

ノ袈裟、摘レテ、刹那ノ頃、天竺ニ至、熱池ニ行テ洗飯リ、以石ニ

掛テ乾ヤレトゾ

○ 勝手ノ社

祭神 大和国勝手明神

良丑上人去野金峰山ニ詣入時ニ勝手ノ神

社ニ聲明ノ法施ヲナス神一ノ童子ニ憑テ託宣

アリ大原山ニ至テ丑ノ佛法ヲ守護スベシト故ニ

勸請スト云フ

○ 小野山

○小野殿

○朧清水

寂光院ノ下ニあり往古ヨリ名高キ

清水ニシテ和歌ニ詠スルノ多シ今ハ道傍ニ一小池アリ

其傍ヲ遺ス村人改修ノ事アリト聞悦フヘキナリ

○寂光院

浄土宗

草生村

本尊地藏菩薩立像八尺 你聖徳太子

開基 聖徳太子

(平礼国房盛ノ女)

寺建禮門院西海ヨリ昭治ノ後此寺ニ所ナリテ其名

人口ニ膺タセリ女院ハ貞應二年薨去而年六十一

建礼門院ノ御影 法体坐像 二尺四寸

阿波ノ内待ノ影 同上

建礼門院ノ後

此ノ寺ハノ櫻ノ下ニあり地ノ境内ニあり

口辺の垣ヲ緑羅ノ垣トシテ門院ノ所墓ニ後ノ山ニ

アリ之ヲ翠峰山ト云フ

土地ハ大原ノ西北隅ニ位シ寂寥ナルニ人跡

本尊ニ為体ノ腹ニ巻ノ地藏像ヲ安メ

ヲ安メ

相傳フ太子ノ乳母

玉照姫ト云レテ之ニ

任スル又安徳天皇

ノ母也

桂宮院

和國書末

寺尊

近江守中備后田

子長久

長久寺

再々堂

北国寺主

明神の御掛徳記  
一巻何人

春ハ漸ク軒端ノ梅香リ庭ノ若草繁ク  
柳ノ糸瓜ニモツレ山藤花ヲカ  
リテ花橋白  
フ頃ハ時音信秋ハ最モ物淋シク心ノ伝  
荒レタル籬ハ野辺ヨリ露シゲク虫ノ音鳴  
つれ  
ろ打

かひまゝト大京の里の燈虫自傳ひつて法の聲まきけ

建礼門院

心ひきや深山の奥ふたむかひて雲升ぬ月をよそにえんはけ

白川は白王と早ゆ草の時

白川院

池水子みきおの極散りおいて浪の花さるさうり成る

白川院

当寺再興ハ寺頼師ノ母方堂ニ額アリ

寂光院佛再興苗山寺頼師

書二行

御母儀

母方備前守

考ニ世安樂也

神明宮

祭神

東ノ外宮

西ノ内宮

善賢堂

石不動

石ノ劔



○ 飯道神社 能野神ヲ祭ル 境内无村多シ

○ 智藏庵 丸田寺未 創三年月日及耳甚薄名不傳

○ 真守 鉄盤石

此所 鍛冶真守ノ定地ナリ 仍テ大原ノ真守ト號ス

○ 江文明神 草牟村ニアリ 古佛ノ女神ナリ

祭神 倉稻魂命 亦名大宜都比賣神

祭礼 五月十日 境内无村甚多

西聖神社 西聖神 水別神 猿田長命

○ 火臺、雨臺、風臺 江文明神ノ社ノ上 町

○ 静原峠 静原村ニ通ス

此峠ヲ越テ 静原村ニ通ス

○ 大原ハ四面皆山 中間曠野アリ 昔ニ度ノ遠立日ヲ聞シテ 之ハ 社會ノ同明ニ伴ヒ

之ハ 社會ノ同明ニ伴ヒ 國々ヲ終廻シテ 京都五條ノ橋 遠テ 此所ニ至リ 是ヲ有

〇此れ... 〇此れ... 〇此れ...  
 〇此れ... 〇此れ... 〇此れ...  
 〇此れ... 〇此れ... 〇此れ...  
 〇此れ... 〇此れ... 〇此れ...  
 〇此れ... 〇此れ... 〇此れ...  
 〇此れ... 〇此れ... 〇此れ...  
 〇此れ... 〇此れ... 〇此れ...  
 〇此れ... 〇此れ... 〇此れ...  
 〇此れ... 〇此れ... 〇此れ...

新古今集  
 我方らぬ人もあはれやまをるらん  
 閑ふく山の秋の夕暮  
 七五のひと臣

古知新光明山阿弥陀寺

本尊

阿弥陀佛

恵心都伴

上人丹誠居士ノナリ

開山至

彈指言上人自作ノ本像ヲ安置スル事

彈指言上人丹誠居士ノナリ

入九女ノ時出家シ美濃ノ國塚尾ノ觀音ニ百日

參籠シ念佛諸行ニ勝ル聖文ヲ授リ夫ヨリ

自行ノ爲メ山居シ身ノ國々ヲ經廻シテ京都五條ノ橋

ヲ通り玉フ時洛北ノ方ニ紫雲觀音光明社ヲトシ

タル所アリ之ヲ慕フテ遂ニ此所ニ至リ是ゾ有

縁ノ聖地ナリトテ則一字ノ堂舎ヲ建立セラルトナシ

云フ也

〇小出石

〇百升

在ハ小知谷ノ街道ヨリ北ニ進ム

〇伊香之峠

在ハ小知谷ノヨリ町斗リ北ノ方ヨリ東

山路ヲ過テハ即伊香之ニ至ル

此ノ地ハ大國ノ所ナリ

清和井水

呂川ノ橋ヲ渡リ右ノ方石垣ノ下ニ小池アリセカセ及清

水トテ石床和歌ニ著ル

三ノ院

呂川ヲ渡リテ北行スレバ則チ三ノ院門前ニ出ツ三ノ院

一名曰融院トテ自觀中并基系聖和尙宗祖傳

教大師草庵ノ地ヲ慕ヒ此ニ精舎ヲ結ビ起リ法

燈綿々後身羽帝ノ時ニ至リ皇太子尊法法親王

門主トアリ信ヒシヨリ數十世皇族世襲ス

世々云今院曰融院ト稱シ來リ中世以後後井宮

或ハ梨本宮ト稱セシハ領地耳別房ノ名ヨ  
 リモナリ明成ノ御時白鳥隆河塔別廢セリモ  
 門跡ノ舊地ニシテ尚ホ京ノ著流ノ右利ナリ  
 殿舎ハ房長中紫宸殿ノ舊屋ヲ以テ造リ久クノ  
 ニシテ且屋根ハ檜良葺ニシテ結構甚ク雅潔ナリ  
 此ノ殿ノ北東ニテ六間十三間ニテ地ニサレニテ  
 三ノ院ニテ  
 此ノ院ノ北東ニテ地ニサレニテ  
 此ノ院ノ北東ニテ地ニサレニテ  
 此ノ院ノ北東ニテ地ニサレニテ

高野村

高野村

三ノ院實光坊ノ北東ニテ杯中ニテアリ承久ノ後三帝  
 北條氏ノ為ニ海島ニ遷リ流ノ坊身羽帝ハ延應  
 元年二月廿二日彼ノ地ニ崩シ同年五月十三日此ノ地  
 從ノ士左衛門尉能茂法師御骨ヲ奉シテ大京毫  
 禪院ニ埋葬シ奉ル順德帝ハ寛元元年四月  
 廿八日亦彼ノ地ニ崩シ同年五月十三日此ノ地  
 法師御骨ヲ収メテ此ニ移セシト云フ御陵ハ南也  
 三相並ニ  
 坊身羽帝陵南ニテアリ  
 同區域ニシテ一墳ノ



寛保三年吉村明  
細考ニハ未社九社  
トアリ

西  
二鎮坐ス

外ニ山神社アリ  
昔ハ多岐神ノ末社  
ナリシヨシナニ合  
福ノ設ケテシ

祭神

孝仁天皇弟三皇子早良親王

神名帳

出雲高野神社高野村ニアリ

今ハ御霊ト称ス

トアリ

例祭五月五日

往古ハ三月廿ニテ七里祭ノ一ナリ

振社 天照皇太神宮

社前ノ馬場於テ寶馬アリ

末社 春日神社

貴布祢神社ハ幡宮

教ノ神

観音堂 境外ニアリ(馬場ノ東)

如意輪観音 行基菩薩作

当社ハ清和天皇ノ御宇勸請自願

年中ヨリ祭典始メテ行ハルトナリ

明治維新前近ハ禁裡中所ヨリ年々参石五斗ノ下賜ナリ

口地ハ西明寺山ノ南麓ニアリ高野川其前  
ヲ流レ境域高燥老松怪杉榎討及泉下  
ニ神寂タリ

三宅八幡神社 当村ノ乾ニアリ

祭神 應神天皇

御名 品陀和氣命

例祭 九月十五日

仲哀天皇ノ第四皇子  
御母ハ神功皇后  
放生合會トナリ

社域 高燥松杉ノ老樹榎討及泉トシテ社

殿ヲ擁シ殊ニ櫻楓ヨク老樹ノ深遠ト

相映シ眺眺見佳ナリ 今社傳ヲ凡ニ掲リ

社傳ニ曰ク 推古天皇ノ御宇ニ酒冠小

本殿  
拜殿  
神樂所  
神饗所  
社々所  
信馬所  
鳩舎

野朝臣毛人入唐渡、大命ヲ受ケ其  
途筑紫ニ病ニ罹リ宇佐八幡宮ニ  
祈禱シ遂ニ平癒度唐ノ後モ專テ祈  
念ノ由ニ依リ禱ニ危難ヲ免カレテ歸  
朝、後報恩、為メ此地ニ勸請セリ其後年  
所屬ヲ經テ南朝、忠臣備後三年高徳寺  
ニ地ニ移住シ印定ノ鎮守トシテ尊宗セリ  
一ツカリキ南來ニ宅八幡宮ト稱シ社殿  
宏壯ナリシモ應仁ノ乱兵燹ニ罹リ古記  
什字寺焼失セリ數十年ノ後里人相謀

リ復旧セシメ大破ニ及ヒタリテ明治二年  
拜殿ヲ建立シ同年本殿ヲ建造セリ  
神樂殿、同三十二年、建造ナリ今ニ至ルニ  
本社、往古ヨリ神威赫々トシテ衆庶ノ崇敬  
最モ厚リ特ニ小兒ノ虫病穀菜ノ虫害ニ  
靈驗著シキヲ以テ擁護ノ神恩ニ浴セリト  
欲スルモノ京都ハ勿論大改、伏見、大津  
長濱、兵庫神戸播磨丹後等道遠  
隔ヲ厭ハス糸泊スルモノ流澤トシテ縁ガ  
如シ

殊ニ例祭、日貴野群詣汗雨社雲敷萬反ナリ

石鳥居（一ノ鳥居）ノ野橋ノ南詰ニアリ明治十一年五月建

立アリ額横其書ハ西村芳洲翁ノ筆ナリ

石鳥居ノ高足ナリ

神社ノ南ニアリ櫻楓ヲ植ヘテ光ヲ増ス

○伊多太神社 式年 最明寺山ノ西麓ニアリ

祭神伊多ノ兩神ノ見立ニ由テ伊多ノ名ナリ

例祭九月九日

應仁中ノ兵燹ニ罹リ焼失セリ今ノ社祠ハ

極テ假ノモノナリ敬神ノ有志者宜シク

营造ノ企テラルベカラズ

与社ニ神帳

明次ノ年ノ刻

現ケルノ社

日リ

伊多太神社

○般命山蓮華寺 最西明寺山ノ南麓ニ神社ノ西

ニアリ天台宗

本尊 釋迦佛 額 蓮華寺 横額

并基壇後

當寺始メ浄土宗ニシテ高野村ノ中ニ在リ

寛文年中（距今二百四十年餘）加賀屋住ノ老

臣今枝民部近義我再建シテ天台宗ニ

改ム

石鳥佛殿ノ西ニアリ激玉ノ額ス

庭園清流アリ屋後ヲ圍ル其流ヲ引



小池ヲ築キ水清澄ナリ樹石ノ配置巧  
 妙ニシテ<sup>也</sup>雅ノ趣賞スヘシ百日江ノ老幹影倒  
 沈テ碧潭ニ落ツ初夏ノ天躑躅花向<sup>キ</sup>蟬鳴  
 クノ日清遊ヲ試ム亦樂シカラスヤ  
 今枝<sup>宗ニ居キ石碑アリ</sup>碑文アリ白<sup>ク</sup>本下瀬庵ノ撰ナリ  
 ○<sup>此ノ</sup>

(Blank page with vertical lines)

池子葉、水清陰、樹石、翠暈、  
妙、雅趣、賞、百、花、注、老、幹、日、影、倒、  
花、子、葉、清、薄、水、清、陰、樹、石、翠、暈、  
妙、雅、趣、賞、百、花、注、老、幹、日、影、倒、  
花、子、葉、清、薄、水、清、陰、樹、石、翠、暈、  
妙、雅、趣、賞、百、花、注、老、幹、日、影、倒、

○ 池子葉、水清陰、樹石、翠暈、  
妙、雅趣、賞、百、花、注、老、幹、日、影、倒、  
花、子、葉、清、薄、水、清、陰、樹、石、翠、暈、  
妙、雅、趣、賞、百、花、注、老、幹、日、影、倒、  
花、子、葉、清、薄、水、清、陰、樹、石、翠、暈、  
妙、雅、趣、賞、百、花、注、老、幹、日、影、倒、  
花、子、葉、清、薄、水、清、陰、樹、石、翠、暈、  
妙、雅、趣、賞、百、花、注、老、幹、日、影、倒、  
花、子、葉、清、薄、水、清、陰、樹、石、翠、暈、  
妙、雅、趣、賞、百、花、注、老、幹、日、影、倒、

○ 李ノ井園 西塔橋ノ南 町ニアリ高 尺  
 奥ノ水同 只ノ水同  
 奥ノ水同ハ此井園ヨリ

○ 櫻ノ井園 白神入口ヨリ東 町ニアリ高 巨石ヲ攢テ之ヲ築ク  
当村北部ノ田地養水ニ充テ水聲 勢ガ急高 且 鼓耳 鞞 踏タリ 前面ハ 巨巖 峭立シ 薜荔之ニ纏レテ

○ 秋夜月ヲ踏テ道遙セハ飯々タル月ノ影波ニ随テ開シ  
 ク杜鵑一聲 耳ヲ掠テ去ル

○ 大田ノ井園 赤岩ノ上流 町ニアリ高 尺 水勢奔駛  
 此井園ハ当村氷室一帯及二葉寺村 田中村ノ田地養水ヲ

引ク知シテ具守護ハ二葉寺田中ノ負担ナリ

蓮華晚鐘 平田菜花 受安殊雪 高川長流  
 台崎鹿走 小野秋月 前庭過雨 生飛泉

細香 月ノ南  
 山越  
 東城ノ入

京都、人川、湯道  
喜ノ山莊、地リシヲ  
旭移上人ニ寄進セシ  
堂宇ヲ建立シ

了  
崇聖院 塔頭  
北勝院

宣保三年寺村  
明細書ニ現存セシ  
一、株ノ梅アリ  
暗香孤月ノ前  
ニ浮動ス

長興寺

安永元年寺  
傳永聖ノ并是ス

有甚也此  
月溪正四比丘尼  
詩傳、一、月山ナリ

○<sup>靈芝山</sup>宝幢寺 神武宗西山派 東山禪林寺末 (永觀堂)

本尊阿彌陀佛 立像三匹ニ年

初近江国志賀ノ里ニ善光寺ト號スル寺

ニアリシモノ故アリラ此寺ニ移スト云フ作室南ナ

ラニ面貌相形等貴奇ナリ故ニ佛工等来

リ拜スト

南是<sup>量堅</sup>旭移上人<sup>元和八年</sup>實永年中、草創ナリ

(距今<sup>七百七十有餘</sup>年) 林泉<sup>長春古</sup>碧岩<sup>深處</sup>

庭砌見ルヘキナシト密氏一條ノ飛泉<sup>アリ</sup>

直下拾尺浙瀝トシテ小池ニ注ク 夢想<sup>龍</sup>

昔ハ龍ノ上方ニ觀音をアリ

○隣好菴 禪宗臨濟派高皇寺ノ末ナリ

高野村ノ東南宝幢寺ノ北ニアリ

本尊 阿彌陀佛 坐像

開山 三江<sup>紹益</sup>和尚大禪師 (慶安三年八月十日示寂)

寺院ハ古ハ高野村ノ中ニアリシ漣雲軒

ト隣好菴トテ合併シ、地ニ移シタルモノ

ナリ (距今廿五年前)

觀雪亭ハ本菴小室ノ名ナリ冬期降雪

朝北<sup>山</sup>明寺山西ノ岩倉<sup>最</sup>幡枝寺ナリ

千日寺 申宗  
藤原寺  
本寺 阿比陀併  
北條 大和院 禪

新名寺 申宗  
心修

明治三年  
廢寺 宝幢寺  
合所

今ノヨリ寺ノ  
竹ノ其跡ナリ

應永廿二年  
甲午僧居除一具

清原院 申宗  
知恩院 一院末  
ナリ功法 申

滝寺 申宗  
一ノ元所又  
此其地ニ在セリ

玉山稻荷ハ在来  
松ノ左所ナリ

今ノ距八百七十年  
前ノ寺保年中  
内裏ニありし祠  
ヲ寺ニ移シテ  
明治維新ノ後更ニ

北ノ受名江北ノ諸山嶺白皚々ノ状一  
中ニカリ近クハ平野ノ銀色ヲ着  
稚童ノ  
中ニハゴテ携ヘ田圃ニ徘徊ス二三ノ村前時  
ニ任持ヲ訪フ来リ優々ハ爐ヲ擁レテ諸  
ル嗚呼樂シキ哉

降ヲ雪ニ今年ノこのりあらけり  
仲餉末ハ之んとたのむそ 佳折

○ 徳雲軒 禪宗高皇寺主  
慶應三年 豐豊寺主 申宗

○ 清原庵 禪宗相国寺主  
燒失ノ後隣村ニ今年又

○ 竹林庵 禪宗相国寺主  
寛保三年多村明細書ニ現在セリ  
任持ノ名モ明記アリ

○ 竹林庵 禪宗臨濟流派相国寺主  
塔形

蓮華寺ノ西ナリ

并山ノ内ノ中僧祖廟一ノ具也

堂ニテ茶屋ニテ清極是ナリ後ハ西明寺山

又負テ清流庭前ヲ過リ極メテ清冽ナリ

一掬盥漱セハ快言リマラス 砦アリ枕流橋

ト云リ前ノ任持也此仙和尚ノ備前ノ人ナリ

未テ此寺ニ任ス書ヲ善クシテ余道ノ蘊

奥ヲ極ム先子正信居士友トシテ相往來ス

伏見稻荷ノ邊ニ奉ル坐ス

○ 所 蔭 山

○ 所 蔭 神 社 夫 奇 村 東 四 五 町 三 丁 乃 蔭 山 乃 祭 神 建 翁 身 命

玉依日靈命

小 右 記 寬 仁 二 年 十 月 廿 五 日 條 二 昨 日 下 社 司

久 清 進 解 文 乃 守 旧 記 皇 大 神 初 降 給 小 野

郷 乃 蔭 山 也 下 乃 小 野 神 社 今 乃 所 蔭 神 社 乃

又 乃 說 玉 依 姬 命 別 靈 神 乃 生 玉 乃 所 乃

故 乃 乃 乃 生 山 乃 乃 其 南 乃 乃 乃 乃 乃

御 生 川 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

石擲長八尺九寸  
横四尺、深四尺  
中ニ銅牌アリ

林巖ニ滿ル、日秋葉錦繡ヲ織ルノ時節  
ヲ曳ク亦是佳ナリ

○小野毛人墓 氏神社ノ東山ノ上此山ノ上許山腹ニアリ

天武天皇向鳳六年(距今千七百廿九年)花井山ノ所ナリト云フ

今輜軒小録ヲ左ニ抄録ス

○比叡山ノ西村高野ト云村アリ亦小野トモ云其

山頂ヲ踏バ鐃トシテ音有る處アリ慶長ノ

頃迄有リテ此ヲ發キケリ向キ見レバ古ナク

擲ナリ且中ニ銅碑アリ長一尺九寸九分寸九分文字アリテ凹入ス其表云 飛鳥浄御

原宮は天下ニ皇孫朝任大政官兼刑部

大卿位上錦上具裏ニ刻ミテ云小野毛人

朝臣之墓 崇寧造歲次丁丑二月上旬即葬

ト凡四十八字筆法通美ニシテ唐人ノ風度有

リ別ニ白川石ノ如ク其石函アリテ此ヲ細ト

其處ノ宝幢寺ト云寺ニ安置ス先子ノ門人

西谷道室ト云テ老人アリテ高野ノ邑ニ隱居

ス凡二十三歳ノ時先子ニ侍シテ老人ヲ訪ハ

クナシニ銅牌ヲ見ル其後 年長準字年藏 号竹里

長堅字才藏 号榮嶋ナド推ハレ行リ銅牌ノコトヲ

尋牙ヲレバ牌ヲ掘リ去シテヨリ後邑衰弊ス  
 ル依リ本ノ處ニ納メ四道ヲト云ヘリ其形木ニ  
 造リ寺ニテリ淨見尊ハ天武帝ナリ北村氏  
 ナド日本書紀ヲ考フルニ其人顯ハレズト云ヘリ  
 且後續日本記ヲ見レバ和銅七年ノ下ニテ  
 夏四月辛未中御言淫ニ位兼中務卿勳ニ  
 等小野朝臣毛野薮小治田朝大德社  
 妹子孫小錦中毛人子也小治田朝ハ推古  
 帝ナリ妹子ハ隋ノ時華ニ使シテ蘇門高ト  
 云フ人ナリ世レバ毛人ハ妹子ノ子ニシテ古時ノ

顯人ナリ云云一尺ノ銅牌ニ依リテ官位姓名具  
 ニ顯ハル孝子慈孫ノ具親ヲ不朽ニセント  
 思フ者其仕方ヲ知ラザルベキヤ國史ニ墓記  
 ト云フモノ有リテ家ニ記シ置クト波銅牌ハ  
 墓記ト云フモノニシテ

前  
 後  
 ○小野暇ハ山端ノ人家ノ尽クル所  
 ヲリ以北高野川ノ東堤ニ沿テ三宅ハ幡宮  
 石ノ身辰ヲ過キ今云ク花園橋ノ原ノ幡宮街道ヲ北シ  
西行ニテ字ニ市川本川也道ノ道路ノ名ナリ世レバ今ハ佃道トナリ  
 小野橋小野橋ハ高野川ニ架ホシ今云花園



△本列改、小三達、  
昂、小野、野、

△此地、

白神例祭、  
神輿、此地、  
あまの、  
天皇、  
任、  
セラ、  
モ、  
今、  
又、

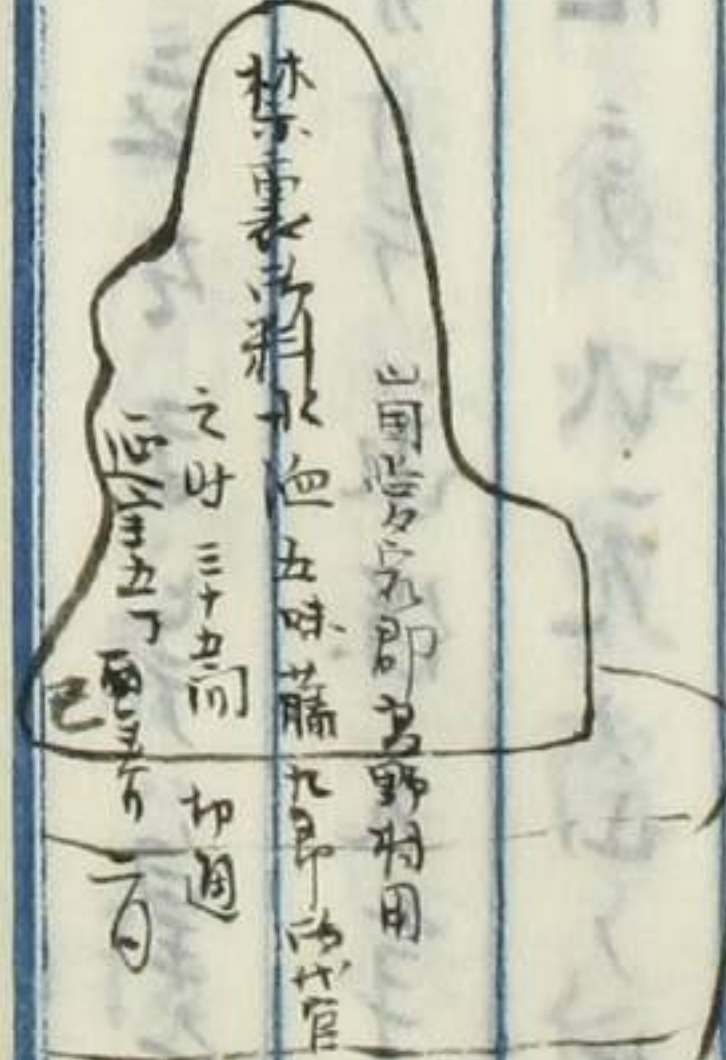
橋ノ、  
小野、  
田圃、  
樹、  
ノ、  
小野、  
皇、  
道、  
世、

橋ノ、  
小野、  
田圃、  
樹、  
ノ、  
小野、  
皇、  
道、  
世、

又、  
神、  
神、  
神、  
神、  
神、  
神、  
神、  
神、  
神、  
神、

神、  
皇、  
口、  
里、  
ト、  
奥、  
奥、  
田、  
飯、  
白、

連り此下、地中ニ流河アリト、思ヒ得サルナリ  
 此水道、起ル、何時迄ナルヤ、據ル所ナシ  
 口、水洞、奥ノ水道ノ出口ヨリ、凡モ下ナリ下  
 流ニ入り、口洞、入口ノ外、石垣ナレバ、サシク這入  
 ル事、上下左右、凡モ空敷ヲ切抜キ、凡モ高リ  
 一尺、幅凡モ四尺、此洞、同窟ナリ、此水洞、起ル、  
 年ニシテ、五味藤九郎代官ノ時ナリ、碑石  
 アリ、左ノ如シ



五丁巳

出口、野殿ノ出口、  
 堂ノ前、  
 榎ヶ鼻、  
 防山、  
 更形跡、

此碑石、元々、村ノ總堂ニアリシモ、維新ノ際、  
 氏神境内ニ移シタリ、村人其功績ヲ言ハシ、  
 ラント、毎歳一度ノ祭祀、  
 寺ノ中ニ、  
 鐘ノキ、昔山門盛大ノ時、鐘樓堂ノアリシ、  
 門口、  
 氷室、  
 氷室、  
 氷室、  
 氷室、

掃除ヶ休  
 二股掃除ノ居  
 一帯ノ山ナリ  
 最明寺ハ村ノ北  
 一帯ノ山ナリ  
 最明寺ハ村ノ北  
 一帯ノ山ナリ  
 最明寺ハ村ノ北  
 一帯ノ山ナリ

此ノ住持施多  
 記アリ曰ク

輿地通誌ニ曰リ氷室有四一在氷室村云一在高  
 野村云

十二社権限ノ森 当村東南ノ方野中ニアリ數  
 百年前ヨリ社殿ナシ今ハ根ノ大樹ニ株直髓々

〇トシテ天ニ參ス  
 〇鮎 鮎上ノ一 当村ハ元禁裡ノ地ニシテ他ノ

領ヲ入ヘス 鮎 捕獲ノ期ニ至レハ二月ヨリ八月中留川  
 トナリテ 松ニ漁獵スルヲ不得 村民日々捕獲シ

而此ハ鮎上セリ 其鮎鮎 簿符等ヲ非利 捕獲  
 スル家アリ 左前ノ如シ 鮎 香魚 年魚 溪鯉魚 トモ書ス

鮎 簿符

簿符

棒 抗

〇 松茸ハ丸山、北山、及横山等ニ發生ス 社期

〇 採草ノ池ニ 都人士女 群集ス 林陰ハ  
 春ハ促明媚 風靜ニ波平ナルノ時 高川岩頭

〇 二荒リ 無釣セシ 俗ヲ池々廢ヲ避ケル 好施ナリ  
 〇 無釣投網ノ 鯉アリ

○ 赤ウネノ 観之日 野橋ノ東ニ許ニアリ

横山北西ノ端岩窟ノ内ニ安置ス 観世音ノ

立像ナリ 温客端正聖儀敬フヘシ 今ヲ距ル

年前 編者ノ外祖自省居士ノ親ヲ拜刻スル

所ナリ

○ 念佛踊ノ一 今ヲ距ル 九百三十年前 天曆曆三年

己酉ノ年七月十五日 当村称名寺ノ庭前ノ異形ノ立室子多ク

集リ念佛ノ歌ヲ宇多此々踊リケル 其有極最殊勝ニ

且面白ク有ケル在所ノ人々共ニ集リ共ニ躍リケル 夫ヨリ毎

年七月十五日ニ念佛濯リトテ老若男女打集リ 迺夜濯ル

一今日ニ傳ヒレナリ

○ 料亭花萬 三宅ハ幡神社西入口ノ傍ニアリ 此地南

曠野ヲ扣ハセケル 高山ノ横山ノ山脈中断ノ所ヨリ 神

樂岡ノ山寺ヲ望ミ 遠キハ 金剛生駒ノ秀峯

翠黛 林ノ如ク 煙嵐渺茫ノ中ニカリ 風光甚佳

ナリ 一樓アリ 澄心樓ト名ス (先子正信居士樓主ノ為 建仁

前住 荆叟大和尚ニ請テ之ヲ傳ルル)

河海ノ鮮魚アリ 膾トナシ 莖トナス 自ラ 欲スル 所ニ從フ

特ニ 鰻ヲシテ 尤モ佳トス

茶庭三四戸アリ 行厨ヲ展テ 一酌スルニ 足ル

○ 赤ウネノ 一茶亭 一里 於テ 行厨

氷室山 在一条東北 一里 余 近千松崎

西塔坂 寺村李ノ井堰ノ上ノ町許ハ願村甲テ割ノ下

町許ニ橋アリ 西塔橋ト云フ 山門西塔ニ上ル 阪口

此橋從ニ還幸橋ト称スレ 東該ノ山ヲ還幸山ト

称ス 愚考スルニ往昔<sup>至尊</sup>比叡山ハ永幸ノ節取路

ト改テ<sup>御願</sup>東<sup>ノ</sup>リ<sup>レ</sup>モ<sup>ノ</sup>ナ<sup>ラ</sup>シ<sup>キ</sup>カ<sup>ニ</sup> 御願ノ中ニ 風天皇

御願ノ中ニ 風天皇

新<sup>神</sup> 草<sup>種</sup> 山<sup>ノ</sup> 故<sup>子</sup> 蘇<sup>子</sup> 之<sup>根</sup> 湖<sup>中</sup> 陸<sup>ノ</sup> 流<sup>長</sup> 石<sup>野</sup>

比叡山

比叡山

比叡山ハ近江國山城ノ西國ニ跨リ大坂海面ヲ抜ク

尺<sup>ノ</sup> 脚下ニ 數十個村ヲ 繞レ 後各大小教百

アリ(今繁ヲ省キ 具右ヲ略ス) 當山東部ハ秩父<sup>北</sup> 實

ナルヲ以テ 檜杉松 樅等繁茂シ 梅耐々 蒼々タリ 西部ハ

花崗岩 質ナルヲ以テ 半腹以上ニ 樹木サナリ 茅<sup>蔭</sup> 笹<sup>叢</sup> 叢

タリ

備前大師 延慶寺 創立 寺ノ 在リ 西大連ニカキ

比叡山ヲ四圍ニ 已カセハカノ如シ

東塔 (東山領) 西塔 (西山領) 三勸寺 (南山領)

○氷室山 在一条東北一里 近千松崎

○西塔坂 古村李井堰の上 町許八腰村甲丁割下

町許ニ橋アリ 西塔橋ト云フ 山門西塔ニ上ル阪口才

此橋俗ニ還幸橋ト称ス 東談山ヲ還幸山ト

称ス 愚考スルニ往昔比叡山ハ赤幸ノ節取路

中阪ヲ由ルモナラシキ

比叡山

比叡山ハ近江国山城ノ西國ニ跨リ大坂海面ヲ抜ク

尺<sup>△</sup>脚下ニ數十個村ヲ繞シ後各大小致百

アリ(今繁ヲ省キ具名ヲ略ス)當山東部ハ秩父<sup>北</sup>生質<sup>南</sup>

ナルヲ以テ檜杉松椈等繁茂シ梅耐々蒼々タリ西部ハ

花崗岩質ナルヲ以テ半腹以上ニ樹木サナリ茅<sup>蔭</sup>叢<sup>生</sup>茂

タリ 僧教大師<sup>建曆</sup>寺 創立ト云キ 在リ西大連ニカキ

○東塔 (東嶺) ○西塔 (西嶺) ○三勸寺 (南嶺)

四明ノ嶽 嶽山絶頂ノ  
 四方ヲ望ムルニ此ニ如ク  
 諸山皆波渺茫ノ中ニ  
 アリ東ハ近ハ一國ヲ  
 脚下ニ踏ミ仰吹  
 諸嶺  
 横田  
 諸嶺ヲ始メ少生沖  
 ノ諸嶺連波滄海  
 ノ上ニ浮ク湖上里  
 煙ノ駛スルアリ白帆  
 未往アリ近ク大  
 津市街 千ノ家屋  
 ヲ見ルハ而シテ

○横川 (小嶺)

更ニ細別 **ト** セニ丸ノ如シ

東塔ニ五塔アリ南谷東谷北谷西谷及無動寺

西塔ニ五塔アリ北谷南谷南谷

年勤寺

横川ニ六名アリ瓊摩石 榊才若谷般差若 戒若 解脫

比叡山之塔

東塔

西塔

一部ナリ

延曆寺

桓武天皇延曆七年僧最澄當山ニ於テ延曆寺ヲ

創立シテヨリ王城鎮護ノ名利トシ歷代帝室ノ

崇敬ニ至深ク七堂伽藍ハ高ク雲表ニ從尊ノ輪

奘莊嚴ヲ極メタリ山中ノ寺院ハ勿論四柱殿ニ諸房

最モ多ク寶ニ三千ノ梵刹甚有テ並ニ佛法隆盛ナリ

シテ彌田信長ノ一炬ニ金山烏有ニ般シ大ニ面目ヲ

損セリ其後豊臣素直 **之ヲ再興セリ** 而シテ寶永年中

徳川 代將軍(大猷公)改造ヲ命シ玉ノ寺付寺領

五千石 僧院百三十坊アリ

近江  
 八日京ハ指呼ノ中ニ  
 落ク  
 ①  
 元宇自リ茲大元  
 杜ノ景隱言スヘカニ  
 真ニ天下ノ勝景  
 ナリ  
 ②  
 南ノ京都市街ナリ  
 人家川棟ノ中ニ隱  
 シ遠ク殿ノ流  
 遠近トシテ損  
 朝ス  
 西北ハ靴ヲ賣ル  
 ノ店等列立シ村  
 落ハ青山白野ノ中  
 ニ在ル  
 ③  
 山ニ上ル數百坊  
 路アリ

南祖最澄三律氏自教子、近江ノ人、七歳ニシテ、学ヲ受ケ、十二歳ニ  
 シテ唐トナリ、後遣唐使サ藤原葛野麻呂ニ隨  
 フテ唐ニ航シ、天台宗國清寺ノ道邃ヲ師トシテ  
 天台ノ教ヲ我ヲ授カリ、皈リテ堂ヲ比叡山ニ建ツ

延暦十三年二月寺額ヲ賜フ

延曆寺ト號ス、其弟子義真 四澄

光定 山仁 貞觀八年七月 賜諡慈覺大師 寺名最天高リ、比皆天台ノ二座主ト

志リ之ヨリ延曆寺大興ル、清和天皇 貞觀八年七月 賜諡

傳教大師ト蓋シ、サレテ後レテ空海アリ、弘法大師後

世二人ヲ譽テ、僧侶ノ巨擘ト稱ス、身兼所兼聖蹟

以下同山大師ト書スルハ傳教大師ト云ハレシ

安樂院 延曆院 觀明院 相持坊 教王院  
 竹林坊 善光院 不空院 思仙院 蓮花院  
 三尊堂 東大寺  
 本願寺 主坊

延暦十三年二月寺額ヲ賜フ  
 南祖最澄、近江ノ人、七歳ニシテ、学ヲ受ケ、十二歳ニシテ唐トナリ、後遣唐使サ藤原葛野麻呂ニ隨フテ唐ニ航シ、天台宗國清寺ノ道邃ヲ師トシテ天台ノ教ヲ我ヲ授カリ、皈リテ堂ヲ比叡山ニ建ツ



贊曰一聞台教理解互融時時拂拭傳牛頭風三部瓶河  
修灌頂王開顯一乘發他師家卅創良嶽祝護聖躬  
為台宗祖法單無窮垂九百歲先報其中智者懸  
識合節應月期善言臨歿或徒集羣口無底醜語  
手不口訓笑淵乎澄師瞻之印之

法海府志記之所諸坊名

法海府志記之所諸坊名

東塔東名十一坊

七社中十禪師宮

三光院

光聚坊

延命院

花王院

五智院

理性院

習禪院

莊嚴院

藥樹院

正覺院

壽量院

東塔小名十二坊

七社中三宮

寶華院

安祥院

觀明院

相持坊

教王院

竹林坊

善光院

不動院

迴向院

蓮花院

善美院

東昇院

東塔南名十三坊

七社中大宮

東塔，副院十

任心院 龍華院 日增院 吉祥院 遺教院

禪林院 寶積院 南光坊 象林院 寶藏坊

林林院 松壽院 七社中八王子

東塔西台 十一坊 七社中八王子

玉泉院 妙音院 上智院 佛樂院 千光院

行光坊 密嚴院 回行院 相住院 寶林坊

法光院 七社中客人宮

寺初乃十三坊 七社中客人宮

真樂院 法曼院 金剛院 善住院 子身院

一葉院 蓮光院 十善坊 松林坊 寶珠院

十妙院 正照院 法照院

西塔南台 十坊 七社中二宮

真樂院 行樂院 大興坊 禪光坊 星光院

大仙院 本住院 無量院 法花院 上葉院

西塔東台 九坊

本行院 西樂院 金剛院 妙觀院 智光院

寶幢院 等覺院 慈見坊 自定院

西塔北台 十二坊

覺仁坊 寶嚴院 松壽院 定泉院 金臺院

正教坊 正觀院 金光院 觀住院 行泉院

金仙坊 山藏院

横川 十四坊 聖真子

惠心院 定光院 艱壽院 戒光院 南樂坊

鷄足院 難頭院 顯壽院 戒光院 一喜院

新禪院 覺學院 光蔭院 妙行院

飯室 五坊

松禪院 山本坊 日乘院 戒定院 東門院

右 天台座主

傳教大師

一 義真 淳和天皇天長元年任座主

一 澄 仁壽四年

一 仁 文德天皇仁壽四年

一 珍 清和天皇貞觀十年

一 尊意 醍醐天皇延長四年

一 僧命 口天皇延喜六年

一 延昂 朱雀天皇天慶四年

一 良原 村上天皇康保三年

一 尋禪 日融天皇永觀三年

一 餘慶 一文宗天皇正曆年間

一 陽生

口上  
任座主

一 慶四

三條天皇長和二年全

一 院魚

後一條天皇寬仁三年全

一 慶命

後朱雀天皇長祿二年全

一 明尊

後冷泉天皇永承三年全

一 原以

日嗣天皇口年間全

一 原良

日嗣天皇天壽二年全

一 行尊

鳥羽天皇保安四年全

一 以下略

一 山門名僧

新皇天皇天壽六年全

日蓮ハ法華宗ノ开祖ナリ 開隆元年 開闢ノ功ニ  
 三ノ山ニ三ノ國ノ天子皇命 在野ノ皇命トナリ  
 年十二歳 澄山ニ遊シ 二事ニテ 後ニ其已レト  
 年十八前 師ヲ受テ 戒ニ 入リ 又稱 傳  
 定少法ヲ 他ノ神ニ 皇成坊 又ニ 蓮ノ七ノ草ニ 法  
 二日 蓮ノ草ニ 蓮ノ草ニ 蓮ノ草ニ 蓮ノ草ニ 蓮ノ草ニ  
 七草ノ草ニ 蓮ノ草ニ 蓮ノ草ニ 蓮ノ草ニ 蓮ノ草ニ

口上

口元里名 青竜寺 龍迎堂ノ東ハ八丁下ニ在リ

本尊 文殊菩薩 行基菩薩像

伯摩居士、田元大師ノ像アリ

元ニ慈惠大師ノ草創ナリ法世上人習テ故ニ守リ

ニ至ナリ

釋迦堂 又轉法輪堂ト云フ

本尊 半金色ノ龍迎牟尼如來 傳教大師作

脇士 文殊、普賢、梵天帝親、四大天王ナリ

文殊普賢ノ二菩薩ハ仁和年中 明海法師ノ願

平録ニ相高法師ノ造立リ 梵天帝親ノ二天ハ延

長年中ニ仁意法師ハ造立西天ハ延長四年

八月月杪天白王第十ノ宮 自親親王ノ所願寛

母大法師ノ造立ナリ

龍迎堂ノ南ニ有テ又ニ本尊ノ像アリ

龍迎堂 龍迎堂ノ東軒下ニ有リ 天曆三年七月淨藏

法師ト修入法師ト法カナ角ニ二兩片トセシ石ナリト云フ

佛足石 龍迎堂ノ前ニ在リ

相輪椽 龍迎堂ノ後ニ有リ 淨慧提心無垢淨光

摩尼幢相輪椽ト云フ 又ハ法華延命堂幢院トモ云

弘仁十一年 阿山大師ノ建立ナリ 高サ四丈五尺アリ

并慶區敷  
龍迎堂ヨリ北  
北ハ法信ニ有リ

諸堂  
御  
山  
上  
ニ  
ナ  
リ

○惠亮堂 惠亮和尚 清和天皇 御即位ノ御時ニ 願

ヲ破テ 爐火ニ投シ 大威徳明法ヲ祈リ 奉<sub>レ</sub>立<sub>レ</sub>ナリ

○常行堂

本尊 阿弥陀佛 脇士

寛平五年 静観僧正 建立 常行ニ時ヲ行スル道

場ナリ

○法華堂

本尊 普賢菩薩

清和天皇 天長二年 延喜菩薩ノ寂光大師ト

カテ 撰セテ 建立シ 南山大師 自筆ノ法華經一部

ヲ以テ 康保二年二月ニ 村上天皇 三昧喜慶座

主ニ 賜<sub>レ</sub>テ 所<sub>レ</sub>ヲ 銀盃ニ納メ 此堂ニ 安置ス 法華

三昧ヲ行スル道場ナリ

右内堂ヲ 土俗ニ 内堂又ハ 弁慶ノ 擔堂ト曰フ

○椿堂

本尊 千手観音 三ツテ 聖徳太子 護持ノ如意

勢 観音ヲ 腹内ニ 納メ 上ルナリ

○別當大師ノ廟 南山大師ノ 弟子 光定 和尚ノ 廟

傳ニ 云リ 和尚 自ラ 尸ヲ 奉<sub>レ</sub>置テ 造ラシメ 其内ニ 筆

入定セラレタリト 傳テ 奉<sub>レ</sub>置ナリ

御  
山  
上  
ニ  
ナ  
リ

鏡  
亦  
入

不  
能  
石

○浄土院 向大師ノ廟所より元ト向山古師ノ時  
自作ノ河津院佛ヲ安置シ玉ヲ改メ浄土院ト云フナリ  
○大師示寂ノ後仁壽四年七月慈覺大師向山古師  
ノ弟遺骸ヲ納メテレシ所ナリ

○山王社

○山王社 山王ノ社ニ在リテハ山王ノ神ニ奉祀スルナリ  
○山王社 山王ノ社ニ在リテハ山王ノ神ニ奉祀スルナリ  
○山王社 山王ノ社ニ在リテハ山王ノ神ニ奉祀スルナリ  
○山王社 山王ノ社ニ在リテハ山王ノ神ニ奉祀スルナリ

○山王院 又ハ千手堂ト云フ

本尊 千手觀音

養老元年乙未年寅ト云フ人ノ伝ナリ 天平宝字元年乙未年寅ト云フ  
傳揚シテ口行ニ依テ留リ玉ヲ其傍ニ置キ四年乙未年寅ト云フ  
ノ所奉若クモ依テ之ヲ安置シ玉ヲ仁壽年中ニ堀川院王自レ勅シテ  
之ヲ改造シ玉ヲ其山王院ト移スルハ 智海法師曰ク住セムル山王院  
○千手水 మరి우受戒시니 改: 山王院ト移ス

東塔雲行 行儀ノ下ニアリ山崖ヨリ出ル泉ヲ石缸ニ集メテ入ルモノナリ

○法華總持院旧跡

○法華總持院旧跡 法華總持院ノ舊跡ニ在リテハ法華ノ神ニ奉祀スルナリ

戒壇院

淳和天皇 天長五年 第一座主 善真和尚 敕ヲ奉シテ  
建立ス

大講堂 戒壇をノ東下ニアリ

本尊 胎藏界大日如來 左脇士 弥勒菩薩 右脇士

上面ノ觀世音ノ並ニ 觀世音ノ帝釈天王ヲリ 又別ニ堂内ノ東方ニ  
又殊ニ觀世音ノ並ニ 檀上ノ西方ニ 檀上ノ天皇ノ 聖王像ヲ安置  
シ奉ル

此堂ハ淳和天皇 天長九年 第一座主 善真和尚ノ建立ナリ  
大衆集合ノ由ニ一山事ノ凡中ハ此庭ノ培壤ニ集ルナリト云フ

天神地

聖女地

前唐院 大講堂ノ後ニ善真 大師ノ廟ナリト云フ

本尊ハ善真大師

此堂ニ善真大師 唐土傳來ノ真言秘教曼荼羅等ヲ御メ

カレシナリ



根本中堂 是即今二葉止觀院ナリ

本尊 藥師瑠璃光如來 向山大師ノ作

脇士 日光 月光 向白化大日觀道公建立

十三神將 向准三后道長公建立

梵天 帝釈 根政大政大臣良房公建立

四天王 向厨子四面ノ市帳 後醍醐天皇ノ御旨

大師堂 又曰堂ヲ天子奉命ノ梵刹 總護國家ノ道場ト申  
宝祓亦久天下泰平ヲ祈念スルノ道場ナリ今建物ハ  
堂内南面ニシテ 作和名中ノ隆也

毘沙門 向厨子四面ノ市帳 後醍醐天皇ノ御旨

八幡堂 向厨子四面ノ市帳 後醍醐天皇ノ御旨

宝前ノ三燈 弘化元年ニ向山大師 手ツカシ燧ヲ鑄リ 五ノ所ニシテ  
三燈アリシガ天録三年並惠三燈ヲカシ一燈ハカク

向山立石寺ヨリ傳ヘ来ル 彼寺ノ常燈ハ元トハ燈ノ大ヲ  
カクルガ故ナリ

竹臺 石階ノ左 向山大師在唐ノ時天台山四宝院ノ叢林

篠ノ竹林ヲ切取リ飯朝ノ後中葺クヨリニ植玉ヲ南ノ方ヲ叢篠ト

ト云々 此ノ方ヲ筠篠ト云フ

菅原神塚 菅原氏ノ墓

菅原氏ノ墓

経藏 中堂ノ北角ニアリ

一切経及向山大師平生ノ遺具及字紙八幡堂ヨリ信フ

菅原氏ノ墓  
菅原氏ノ墓  
菅原氏ノ墓

大學林

天台宗ノ學校了  
明治 年 月 創  
立

外ハ宗衣等ノ宝物ヲ置ス

文殊樓

房和天皇貞觀三年 慈覺大師ノ草創ナリ  
本尊文殊菩薩

脇士 脇侍 四軀 童子是軀 兩者丈夫是軀

妙見堂

中堂在ノ後ナリ 往古ノ

八部院ノ跡ナリ

本尊 妙見菩薩

并山大師ノ草創ナリ 藤原大政大臣一是ヲ改造シテ六天ノ像ヲ安置ス

本願堂

中堂ノ北ノ宮ニナリ

本尊 藥師如來

并山大師 三昧發得ノ靈地 眞利ヲ董修 律行ノ聖跡ナリ

大里堂

中堂ノ東南ナリ

本尊 大里天

秀吉公乃山再興ノ時建立シ 和ナリ

西尊院

大里堂ノ南ナリ

本尊 阿弥陀如來

定心院

西尊院ノ傍ニナリ

兼和十年 仁明天皇ノ教額ニシテ 慈覺大師ノ建立ナリ

佛頂堂

天梯權限

本尊 佛頂尊

田邊 佛頂尊

本尊 佛頂尊

字勤寺明王堂

本尊不動明王

相應和尚作

房机天皇貞觀七年相應和尚ノ建立ナリ

堂前ノ松ヲ於於迦羅松トイフニ童子影向ノ松アリ

石ノ本アリト云フ

○相應寺 明王堂ノ下ニアリ

○并野天社 明王堂ノ南三丁ニアリ

○大年院 明王堂ノ東三丁ニアリ

善鏡和尚ノ旧跡親善堂也人住山ノ寺ナリ上人自

作ノ像アリ庭前ノ櫻ヲ西行櫻ト云フ

○大徳寺 善鏡和尚ノ旧跡也

○大徳寺 善鏡和尚ノ旧跡也

○大徳寺 善鏡和尚ノ旧跡也

○大徳寺 善鏡和尚ノ旧跡也

○大徳寺 善鏡和尚ノ旧跡也

蛇ヶ池

横川 是昂首楞嚴院ト云

○不二門 此外ヲ身居ノ岡トモ不動ノ密トモイフ口門ヲ隨縁  
 不立者不二門トイフ 疑ニ曰ク 願諸未向ノ者皆入不二門ト  
 慈覺大師ハ 法ニシテ 玉座主公道親王ノ御事ナリ 工入良  
 ○阿弥陀峯 又小比叡ノ山年トモ波母山トモ云 惠心僧都  
 ○山越ノ沙陀ヲ感見シ 玉ノ如ナリ  
 ○横川中堂 天長六年 慈覺大師ノ草創ナリ

本尊 ~~法門天~~

聖觀音

左眼士 毘沙門天 慈覺大師ノ作  
 右眼士 不動明王 佛師明定ノ作

根本如法王

○元三大師廟 中堂ノ良位三下ニテ 此處ヲ椿尾ノ山年ト云  
 大師講ノ良原 善書本佛ノ講ニ 永觀三年 西月ニテ 入寂ス  
 故ニ 九三ノ大師ト云  
 ○四季講堂 大師廟 西ニテ 又 又堂ノ下ニテ 大師ノ

△江戶府井郡人  
 也 廣山ノ理仙ニ事  
 一 尊ニ見ヘテ 受  
 戒レ 尋テ 顯密ノ  
 秘奧ヲ 宣示 早博  
 學ノ 名ヲ 得 宏良  
 道徳 雄辯ニ 自ら 鑽  
 テ 把リ 自新ト 曰フ  
 曰ク 我ハ 佛道ノ 加  
 必ス 耶 佛ヲ 辟シ 此  
 ヲリテ 檀印ヲ 天下

氏屋ノ戸扉ニ執  
リ謚ヲ慈慧ト  
賜フ以テ唐山中  
奥ト為ス

叡山ニ登リ慈  
惠大師ニ事ヒテ  
歎密ノ教ヲ究ム  
此年ニ及横リニ  
屏風ヲサス時人  
惠心院傳都ト  
稱ス

了 往古ニ 弘勤菩薩ヲ本尊トセシモ今ハ元之大師ヲ

本尊トス

○ 毎年四季ニ法華八講ヲ執行ス故ニ四季講堂トナリ

○ 惠心院 毘卒谷ニアリ

○ 田部天皇 丙午 永觀元年 攝政大臣トシテ 兼家公ノ建立

○ 并是ニ 慈惠大師 号ニ 惠心僧都トシテ 住セシ以ナリ

○ 惠心僧都 初名ニ 因信 姓ハ 部 和州葛城ノ人ナリ

○ 日蓮上人ノ舊跡

香芳公ノ定光院トナリ

○ 飯室ノ台 明王堂

室漏寺トナリ 慈恩和尚ノ建立ナリ

本尊 不動明王 慈真大師ノ作

○ 中納言 身懷 妙童尼ノ地ナリ

○ 安樂院 飯室台ニ在リ

本尊 弥勒ノ三即王 惠心僧都ノ作

○ 寛和元年 唐實禪師ノ創立ナリ 惠心僧都ニ之ニ 隱棲シ

○ 玉ノ口 其場 天保七年 天台律宗 總持寺トナリ 寺前ノ

○ 菩提樹ハ 宋ノ 四明知 法師ノ 贈ハ 所ニテ 惠心僧

都ニテ 植ウ 元龜ノ 兵火ニ 罹リ 一旦 朽レタニモ 十九年

○ ヲ 佳ラ 枝葉 再ニ 生ヤシモノナリト云フ 加ニ 其ノ 樹ノ 影



*Faint handwritten text in the upper right margin of the left page, likely bleed-through from the reverse side.*

海北兼生レ平表  
ミテ高カラズ日取キ  
秋望ニ富ハ社日撰筆  
和入遊樂ノ辰トナ

海軍師範、舟十子、高志、二、舟子、地胆、  
乾、管、通、分、偏、在、泉、三、日、海、三、野、中、醫、政、知、ナ、し  
禪、ハ、お、せ、し、禪、四、柳、ホ、テ、ニ、ヒ、し、ヒ、ヒ、自、犯、説、知、テ、後、テ、  
之、テ、野、子、を、ん、と、取、禪、通、出、ブ、カ、ノ、衣、笠、持、テ、出、シ、シ、  
御、ヒ、ナ、リ、一、五、ハ、右、外、橋、ノ、石、ハ、川、ノ、水、也、御、カ、テ、シ、テ、云、也  
名、々、目、ヲ、尋、セ、シ、ス、ハ、藤、ニ、枝、シ、テ、赤、即、ヤ、ニ、橘、工、也、  
二、亦、五、下、ニ、取、ハ、ん、云、迄、二、初、テ、一、身、所、向、梨、ト、ス、名、性  
ハ、口、任、ス、ん、稱、コ、リ、妙、ハ、永、延、ニ、年、の、乃、辛、苦、寂、ス、極、シ、テ、  
シ、終、壽、下、海、身、ヲ、留、シ、ハ、

同

○物産ハ米、麦、苧、大根、芋、番椒、其他ノ野菜  
ヲ産シ就中竹ハ最良ナリトス

吉田町

○吉田町ハ元慶安宮郡ニ属シ村落ナリシテ  
明治 年京都市街擴張ニ付編入シテ市街  
トナリ町名ヲ冠ス神樂岡西方一帯ヲ云テ  
○神樂岡吉田町ノ東ニナリ四面平原岡勢孤  
起土壤高燥ナリ

○<sup>上田白</sup>齋場所、神樂虫ニアリ

○當社、清和天皇ノ御宇、貞觀二年、中納言  
山蔭卿ノ勸請、又一説ニ、卜部兼延人造臣  
氏云

○本殿、大元宮、日本神祇三千百三十二座ヲ  
鎮座シ奉ル

○八神殿

○祭神

○御食津神、大外、羊、番、其外、神皇  
神、皇產靈尊

○魂留產靈尊

○生產靈尊

○足產靈尊

○道及魂神

○大宮靈尊

○事代主尊

○外宮八神殿

○内宮

○日本國中總社

○西



木瓜社 吉田所、白神ナリ

祭神 中野素盞石等

例祭 八月三日

日降坂 木瓜社ノ南ニアリ 往右日神ノ降臨

地ナリ故ニ號アリ

龍澤池 本社ノ南ニアリ南都猿江池ニ擬シテ造リタリト

春日社 神樂岡中史 西村殿ニアリ官幣中社

祭神 武甕槌命

武甕槌命

武甕槌命

天津見屋根命

姫比賣神

南都春日社ニ同シ

貞清和之白王 貞觀年中 山蔭師、勸請

ナリト云フ

右ノ外 若宮 神敷使塚、飯塚、新長寺

智福院 下マナリト云フ之ヲ畧ス

二本松ハ吉田所ノ西田疇ノ中ニアリシモノ今テ茅

三高等学校本館 玄園、西脇ニ併立ス 千年ノ

緑色ヲ垂ゼス 六百ノ学生 此下ニ勤学ス



内三子計のホナシ  
系  
其裡中科分指四ヶ  
許、領分ナリ

三嶋山神社  
三嶋山神社  
三嶋山神社  
三嶋山神社  
三嶋山神社  
三嶋山神社  
三嶋山神社  
三嶋山神社  
三嶋山神社  
三嶋山神社

中ノ大田ノ庄  
中ノ大田ノ庄  
中ノ大田ノ庄  
中ノ大田ノ庄  
中ノ大田ノ庄  
中ノ大田ノ庄  
中ノ大田ノ庄  
中ノ大田ノ庄  
中ノ大田ノ庄  
中ノ大田ノ庄

海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫

海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫

海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫

海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫

海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫  
海軍國庫

北ヶ岸村

○松ヶ岸村  
東ノ山端所及高野ノ境ニ

○北ヶ岸村  
接シ南ノ善薩地ノ下鴨ニ交

ルニ數

○氏神 新宮神社  
元ノ自懸此神社ト稱ス

祭神  
法華一乘ノ守護 大比叡ノ神 改宗ノ後 法華平経

猿田彦ノ神  
明和三年三月五日  
白鬚神社  
新宮神社  
北ノ神  
延和ノ遷世中ニ一江  
一寺ニ寄ルニ道尊ニ行リ

例祭  
十月二十三日

○大里天  
北ヶ岸ノ大里天ニ具名最モ高ク

甲子ノ日ニ遠近ノ參詣人  
幾千ニ至ル

二尊像、天永年、日蓮上人、安房國ニ施化、玉丁

折柄、一人、沙門、来テ、上人ニ、謂テ、請ヒ、申シ、テ、曰ク、自己、年久

シ、尊信スル所、大里ニ、所尊像、是レ、即、飯山ノ、所、是

傳、放、大師、彫刻アリシ、具、一、体、ナリ、今、是、ヲ、二人、ニ、奉、テ、夜

ハ、伯、受、シ、玉、ハ、ワテ、此、尊像ヲ、拜、礼、ス、即、掌、ヲ、シテ、拜、禮、博

進、安、穩、樂、果、ヲ、興、シ、給、ヘ、ト、言、テ、早、テ、去、リ、ニ、キ、南、来、故、尸

ハ、此、尊像、當、山、所、是、本、質、院、日、英、上、人、之、ヲ、感、得、セ、リ

ト、云、ク、口、地、ニ、**木蓮**、**花**、**満**、**ク**、**リ**、**所**、**ハ**、**下**、**野**、**ニ**、**是**

〇地ニ、**無**、**絲**、**櫻**、**多**、**シ**、**花**、**時**、**道**、**邊**、**ニ**、**宜**、**シ**

北ハ、松ケ山、青山、一帯ヲ、負ヒ、南ハ、田野ヲ、隔テ、

京都彩霞殿中ニ

春候、明媚、時、畦、畔ニ、紫雲英、蒲之英ヲ、摘ミ、狂蝶ヲ

菜花ニ、走

〇松ケ山、妙泉寺、法華宗、立本寺主

本尊、新加、如來、宝蓋、如來、多寶、如來

同、是、云、日、像、上、人

〇題目、踊、ノ、一、毎年、八月、十六、本堂ノ、前ニ、於テ、村ノ、老

若、男、女、打、交、リ、題、目ニ、節ヲ、付、踊ル

此、寺、ニ、ハ、天台宗ニ、シテ、高、山ニ、屬ス、ト、云、ク

〇日、小、涌、寺、法華宗、立本寺主

同、是、云、日、生、上、人、立本寺十三世ノ祖ナリ、教藏院ト稱ス

改筆テ壇所ヲ京都六箇所ニ立テ之ヲ始ル為ス其時ノ第七教  
日ハ檀林ヲ設ケ教授セリ

○妙因寺

法華宗

宗尊  
完甚

日蓮上人

○八月十六日

本相ノ山腹ニ於精靈祭ノ為メ

妙法ノ二字ヲ焚火ニ

現ハシ盆祭ノ送火トナス

○松ヶ嶺山ノ東端ニシテ高野川ノ西岸ニ字不動山アリ

巨巖後時ニ椎松枝ヲ文ハ躑躅花最モ

多ク小野殿ヨリ之ヲ望メハ美觀云フバカラス

降雪ノ旦殊更瓊林

○北仲池

村北ニ有リ本列板ヲ越テ岩倉ニ至ル道疏ノ東方ナリ

○周囲各々町東南西山腰ニ傍ヒ北ハ堤塘ヲ築キ桶ヲ

設ケ蓄シテ水ヲ貯テ旱魃ノ時田地用水ノ料トナス

○野井

村北ニ有リ本列板ヲ越テ岩倉ニ至ル道疏ノ東方ナリ

○櫻井 古村ノ西字西山ヨリ本列坂ヲ昇ル道傍ニ

山ノ神ト名ヅクル社アリ其西ニサレキ井アリ是振井ノ跡ナリト云

○木列坂 古村ヲ播枝岩倉ニ通スル坂道ナリ

○七面大玉女ノ社アリ眼病救護ノ神ナリ此處ニ式個ノ飛泉

アリ日輪ノ瀝日ノ月輪ノ瀝ト云

○佐塚 数珠塚ニシテ奥塚ト云ハ西山ノ西ニテ子ノ山ト云

一村改宗ノ時初所持ノ経卷念珠及以神ノ神輿等ヲ埋藏

○松ヶ崎ノ氷室ノ跡 北修学院村ノ南ナリ

字夫ヶ谷ニアリ 輿地通誌ニ曰ク氷室四アリ一松ヶ崎

村ニアリシ云

○王塚 古村ノ西南岡中ニナリ丸一坪ノ地山崎志ニ曰ク松ヶ崎

ノ村ノ小塚トハ乃々是ナリト云

○八天宮

○全神

○八

○

○

○

○

○

○

○

物産 各種人々  
土根 華野 水産 日比 一村  
...  
...

一乗寺村

沙土の混清 具色 淡里 一和 澤本 甘茶 疏  
ニ適シ 桑茶 三箇 又ニ 桑山 湯之 早目 稻ノ 葉ノ

○一乗寺村、白川以北、修学院村ノ南ニアリ

東ハ山嶽ヲ負ヒ西ハ高野川原新田ニ臨ム

教

○往古ハ一乗寺、數里、樂寺ノ三村ナリニテ

八テハ合シテ一乗寺村ナリ

○八大天、皇、ニアリ、寺村、氏神ナリ

祭神 素盞雄尊

祢田姫

八王子青子

一乗寺 一巻 數里  
月林寺  
舞樂寺  
以上廢寺  
山門ノ本院ニシテ 楓  
紅葉 殊ニ多ク 永  
正十四年十月 將軍  
一乗寺 舞樂寺 誌  
收見スト云フ

例祭 五月五日 往古ハ三月五日ニシテ七里祭ノナリ

神樂ナシ 警馬ナシ 神樂モ甚

末社 諏訪八幡宮

身居 降リ杜ノ北ニアリ 額

横

創シ年月不詳 應仁兵火ニ殘燬ス 協文祿五年ニ重修セリ

瑞岩取山圓光寺 本村ノ東ニ 山ノ麓ニアリ

禪宗臨濟派南禪寺ノ所屬ナリ

初相國寺境内ニアリ

本尊 千手觀世音坐像 三尺余 運慶作

○向山 女三要和尚元佐 初尚ノ村ノ南ニアリ

寺 寺初ノ野州足利ノ學校ニシテ 其石質文

七年 此地ニ移ス 三要和尚ノ達德ノ傳ナリシヲ

澗川初代存軍ノ皈依甚厚ク 畿内寺社ノ

訟訴ヲ裁断セシム 又都鄙ノ國學ヲ掌理

セシム 仍テ洛陽ノ學校ト移ルタリト云フ

○什宝 木板ノ活字十萬個 今其半 個ヲ存ス

朝鮮ノ書畫ノ子昂ノ書ノ應舉ノ畫ノ十六羅

漢ノ渡辺子興ノ撰

塔頭 水心菴 桂林菴 岫雲軒 今ハ廢寺トナル

東照大權現宮 家康公ノ所帶劔ト向當トテ奉安ス 寺ノ鎮守ナリ

○金福寺 村ノ南端ニアリ 禪宗臨濟派



本尊 正觀音 正尊 慈覺大師作 貞觀年中創立ノ古刹ナリ

了山不詳 貞亨中 鉄舟和尚中興ス

△國中ニ大元石得アリ

此地土地高燥 西望セハ 愛宕山等一脈ノ山峯

巖 歴々トシテ 一眸ノ中ニ入ル 嵐ニ入リ 野ニ充テ

清風徐ニ来ル 表 南窓ノ下ニ若事ニ遊旋シ風

月ヲ弄セハ 身 俗間ノモノニカラス △

芭蕉翁 菴 金福寺境内左辺ノ山腹ニアリ

其構造 同流 靜前ニシテ 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁ノ假住スル所 俳家ノ最 美稱

芭蕉翁伊賀ノ介  
川菴 柳青 羽鳥  
釣月 羊角等ノ號  
アリ 切ニシテ 穎悟長テ  
老匠禪學ヲ修メ  
俳諧ヲ好ミ 其妙實  
ヲ極メ 自ラ一機軸  
ヲ出ス 門下ニ十哲アリ  
名籍 聲 當時ニ藉  
見タリ

吳村 景文ノ墓

月ノ師トシ 後又芭蕉村ニ就テ 画ヲ修ム 又俳諧ヲ喜ブ 文化八年七月十七日歿ス 年七十

降り松 八天白石ノ華表ノ傍ニアリ

南並朝ノ夜屨々合戦ノ巷トナリシ 加ナリ 歴史家ノ訪ル 加ナリ

今其私ヲ見ルニ 枝葉疎ニシテ 勇氣乏シ 村人ニガ手入ラ 危ルベカラス

俗諺ノ 松尾ノ三本目ノ松ハ 此松ノ子ヲ云フ 今ノ樹ハ 三代目ノ松ナリ

深敷 墓ノ元ハ 寺村ノ字ナリ

深敷 皇太子ノ墓所ナリト傳フレバ 未確定セズ

比良木 不林 降松ノ斂ノ方 田圃ノ中ニアリ 子ナ年頃迄ハ 森ノ樹木

生ナリ 今ハ 耕地トス

① 建築之四時  
花水ヲ植へ大ニ  
風致ヲ増セリ

△樓屋古雅  
△流ヲ極ム

○茶屋山 京都ノ町人頭茶屋四郎次郎家康ニヨリ

拝領ノ地ナリ依テ茶屋山ト云フ今ハ杉本某氏山莊

○詩仙堂ハ八大天白皇ノ西ニアリ石川丈山ノ

山莊ナリ表門ニ小有洞ノ額アリ中門ノ額ハ

梅園路次ノ額ハ凹凸窠樓上ニハ晴月樓ノ

額アリ下ハ蜂腰ノ額ナリ此ニ漢晋唐宋ノ詩

人三十六輩ノ像ヲ畫キ別且人ノ詩ヲ丈山

親ウ書ス画ハ狩野尚信ト云フ詳細ハ先生傳アリ

○詩仙堂 十二日京

満蹊櫻花 前村初雨 嵐廠牆瀑泉

硯池印月 溪邊紅葉 四山高雪

台嶠削雲 鴨河長流 洛陽晚煙

難波城樓 園外松聲 鄰曲菴祠

○先生ノ遺物

残月硯 木崑崙 櫻毛拂

竹如意 天造几 獅子榻

陳眉公琴 硯管 料紙管

○石川丈山ノ墳 詩仙堂 巽方山上ニアリ石

碑ノ文ニ曰ク

先生名ハ四初、名ハ重之、嘉右衛門ト稱ス、字丈山、六々

山人、凹凸窩、大拙、烏鱗、山木、山村、數里、東

溪、三足等ノ數辨アリ、參州碧海郡、人祖正信長

湫ニ戰死ス、父信定亦武名アリ、傳テ茶道ニ通ス

元和元年大坂ノ役、東照公ノ麾下ニ在リ、殊功ヲ建シ、獨

リ竊ニ管ヲ出テ、先登シ、首二級ヲ斬ル、此レ氏具ノ

軍令ヲ犯スヲ以テ黜ケラル、遂ニ京師ニ南居ス、時ニ年

三十三、乃チ藤原惺窩ノ門ニ遊ビ、林羅山、堀杏

菴、菅原得菴、野向三竹等ノ諸名士ト交詩

相交リ、嘗テ漁村夕照ノ詩ヲ作ル、其末句ニ曰ク

欲得袈裟衣、曝邊照釣竿、還見魚陽戈、惺

窩稱シテ曰ク、斯ノ人後必ス詩宗トナラント、母老イ

家貧シキヲ以テ、強テ紀伊、淡野長晟ノ招キニ應フ

將ニ往ントスル中、羅山及ビ得菴ニ謂テ曰ク、此レ我志ニ

アラス、已ヲ得サレバナリ、母天命ヲ得バ、我必ス吾志ヲ成

ント、時ニ年四十一、後チ從ヒテ藝州ニ從ル、之ニ事ル十

三年、母疾ヲ以テ歿ス、乃チ上書シテ致仕ヲ請フ、許ル

サレズ、輒チ私ニ行テ京ニ皈ル、所司代板倉周防守ハ

先生末山ト稱アリ、善ク之ヲ過ヌ、乃チ澗川幕府

ニ薦メ、シテ歿ス、丈山固辭ス、寛永十八年、廩山、村鹿一

骨也、正親王、皇

傷不、良、天、皇、皇

皇、明、院、方、勢、力、リ

良、如、臣、親、王、皇、

陽、天、皇、天、皇、皇

良、應、正、親、王、皇、

普、明、院、公、皇、

伯、小、鹿、天、皇、皇

女、村、上、皇、一、升、祖

皇、天、皇、皇、皇

皇、天、皇、皇、皇

東寺村ニ於テ詩仙堂ヲ築テ居ル畫師狩野探幽ヲ  
シテ漢魏ヨリ唐宋ニ至ル迄ノ詩家ニテ六人ノ像ヲ  
寫サシメ自ラ其詩ヲ書シテ楯間ニ通列ス因テ自  
ラ六人山人ト号ス日ニ其下ニ吟哦シテ優游自ラ  
嬉シム諸名士ノ經過スル毎ニ談論唱和シテ嬉樂トス  
居ル久シ世其風ヲ仰キ来リ訪フモノ日ニ多ク大山  
其應接ヲ厭ヒ周防侯ニ謂テ曰ク我老タリ是世  
事ニ倦ム將ニ故園ニ歸隱セト侯許サズ先書ク  
然ラバ自今復タ城市ニ入ラズト乃チ和歌一首ヲ  
作り其意ヲ示ス  
(渡らば小川の清く)

と也老の波そよぶ影をゆづりかへし  
上皇具風操ヲ高シトス 徴シテ之ヲ見シト 歎ス先生  
乃チ嘗テ作ル所ノ和歌ヲ書テ之ヲとり 辭スルニ 折言テ  
鴨何ヲ渡ラハルコトヲ云ラス 上皇歎責強クズ寛文  
十五年五月廿三日没ス 享年九十 先生尤々詩ニ長ス  
朝鮮ノ槽式稱シテ日東ノ李杜トス 物色徒モ亦東  
方ノ 杰トシテ兼テ書ヲ善クシ 画ヲ工ニス 嘗テ後光  
明天皇ノ勅ヲ奉シテ 録書ヲ作りテ以テ 献ス 帝大ニ  
悦ビ 酒肴ヲ賜フ 世之ヲ学ボス 先生妻孟母ヲ置  
カズ 故ニ嗣子ナシ 門人安宅 果健テ 詩仙をヲ守ル

後又傳尼ノ任スルアリ享保年間聖元上皇一たび  
詩仙堂ニ臨幸ス是ニ由リテ遂ニ列シテ洛東ノ名勝  
トナルト云フ (日本人名辭書)

禎仙祠

丈山先生ノ壽墳ナリ高八尺餘ノ自世石ニテ色青し臺  
石三重ニシテ墓前ノ石壇三向許石燈篋並基アリ碑文ノ  
銘ニ曰ク

有林器識 居林巒 安義節  
泥蟬冠 懿哉德 天地宮見

栴言散人楚子苗父識

○<sup>聖水山</sup>養原寺 北山御防ト云フ 親齊即王人ノ舊跡ナリ

古徳ハ淨土宗ノ<sup>寺</sup>院ニシテ諸堂巖窟タリ境域ニ聖

水アリ故ニ聖水山ト號ス 聖人叡山ニ在勸寺ニ戸

リシ時一宗南宗ノ志類ニシテ此処ニ暮リ聖水ニテ

垢離シ京都六角堂ノ救世觀音ニ詣ルト云フ

今ノ堂宇ハ法如上人ノ建立ニセシモノナリ

親鸞聖人ト宗南宗ノ後今ノ宗方ト云ル  
而シテ<sup>近世ニ至リ</sup>真宗報恩講、本元ナリト云フ

○<sup>聖水山</sup>養原寺ノ北山御防ト云フ

曼珠院 天台宗ニテ山門ノニ座主ナリ  
身ハ竹裏門主ト移ル

本尊 阿彌陀如來 元比叡山ニ在リ具

後天慶年間向西塔小舎ニ遷リ東尾坊

ノ彈入天仁年間曼珠院ト改メ明曆二年

良尚親王奏請シテ今ノ地ニ構置ス

庭園ハ小堀遠品ノ作ト云リ清雅幽深ノ

趣アリ鯉ノ庭ト称ス

和漢三才園會ニ寺領八百五拾七石ナリ維新前ハ

什寶寺 北山崎ノ寺ニ移置ス

一 冬夏山水画 双幅 傳雪舟子

一 花蝶画 双幅 傳趙昌子

一 雪景山水画 一幅 宋端子

一 猿画 一幅 毛松子

武田信玄ノ寄附

一 璇璣图卷 一卷

一 老松鷹画 双幅 雪村子

一 苗不動像 一幅 傳智隆ノ師子

一 醍醐天皇宸翰 一幅

一 冥道供養記 一卷 尊田親王子

一 手中竹了士概 卷冊 甘露寺秋長寺

一 紺紙銀泥経 卷 傳教土師了子

一 不動明王像 一巻 傳教土師了子

一 茶巾如來像 一巻 傳教土師了子

一 頭金梨子地簞 巻管

一 青貝細工簞 簞篋箱 巻筒

一 簞 簞 簞 白毫 巻箱 傳教土師了子

一 簞 簞 簞 白毫 巻箱 傳教土師了子

一 簞 簞 簞 白毫 巻箱 傳教土師了子

一 簞 簞 簞 白毫 巻箱 傳教土師了子

○ 一燈庵 修學院村林丘寺ノ別院ナリ

○ 聖馬頭 觀音堂 聖德太子ノ作

傳云 聖德太子一木ヲ以テ三體ヲ彫刻シ玉ニ 寺傳ハ東京  
同草ノ觀音ノ 寺傳ハ若狭國松尾 (西國礼所二十九番)

觀音 寺傳ハ寺ノ寺ニ安置ス  
臨江亭 觀音堂ノ傳ニリ 室前ノ額ハ林丘門主滴小禪師ノ筆

○ 称名寺 淨土宗 智恩寺末

寺傳云 德藏和尚 元龜二年ノ訓立 其后火災ニ罹リ心傳中  
寺傳和名中興寺

口寺 昔ハ 德藏庵 ト云傳明頃改テ知テト云

延寶七年 石川主殿頭 檢地帳ニ 德藏庵 トアリ  
今ノ名ニ改テハ 梅室和尚中興ノ時ヨリナリカ

檜垣塔

三重高サ五尺 見  
七雅ナリ  
ハ野好丸ノ建テリ所  
今ハ林丘寺内ノ  
移ス

入法中文

○西内寺 天台宗 坂本西教寺末

本尊 ...

南星 田戒國師 貞觀九年創立

田戒國師六字右羅 惠心僧都三幅 達摩大師画像

○当村 ...

○松茸山 水掛山 清賢山

修学院村

○修学院村東ハ音羽山ヲ負ヒ南ハ

寺村ニ境シ西ハ松ヶ峯高野ニ接ス

数 人口

○修学院離宮ハ本村ノ東ニアリ上中下ノ三所

ニ分ケレ上ノ離宮最モ大ニシテ 後小尾法師ノ所建

苑泉幽邃林巒雅致眺望絶佳风光

明媚春秋夏冬ノ雪夕花朝月色避

日者天下有數ノ仙臺ナリ皇居附屬地ナ

ルヲ以テ 褒鹿ノ拝觀ヲ許ス

田方八百八柱有宗

二万字有年

三万有 林兵字



拾玉  
ひ元の山乃こそ  
いとさびしけれ  
雪の色あらは  
れ社より

○醫本林神社

寛文七年 聖元天皇ノ敕命ヲ以テ  
神号ヲ醫本林ト申ス

祭神 素盞雄尊

長徳天皇

例祭 五月五日

往古ハ三月五日ニシテ七里祭ナリ

神輿 寺屋

古ハ祭物トシテ禁裡多ク未ダ青絹赤貫文下賜  
仕立寺宮ナリ 五百文

石側ノ馬場ニ於テ競馬ナリ

石ノ島辰本社ノ南ニナリシヲ明治三十  
二年 月馬場既ニ移ス

○聖明山林丘寺

天竜寺派 聖母院ノ口ニナリ

本尊 聖観音

音形ノ所ナリト稱セリ

同是 照山入瑤 禪尼公

後水尾天皇

○**聖堂** 帝土女 維宗天子内親王  
修学院ニ離宮ナリ 中ノ離宮樂軒是ナリ 明治四年寺名改シ  
堂宇完仕 固林 是ト云ナリ 内ニ 聖王山亭

アリ 遠リ 嵐峽ヲ望ムヘシ 地高ク 氣 鮮ナリ

天皇ノ御製  
替和歌  
よしやゆふの山さくらのかち木くはねも心の花

○禪華菴

林丘寺ノ西ニナリ

禪宗臨瀆派

大徳寺末

本尊 釋迦 文珠 普賢

开基 高桐院第廿世清浄本然禪師

清梵 三ツテ 雅致 ナリ 秋夜短檠ノ下 枯坐 靜

思シテ

夢想 六里天

畫影ニ幅射及本像七里ニキルキ 其ニ  
厨子ノ内ニナリ

○道入寺

法華山 村ノ南 音羽川ノ傍ニナリ 法華

宗 妙覺寺末

修学院 在伯公行  
建立 紀 勝算ヲ  
以テ 寺ニ 祖  
門 未 院ナリ  
隨 願 寺  
佛 性 院

藤原 聖 尊 佛 末

南水 禪 師 遷 代  
地 十 川

元慶七年乙丑  
工師  
相和  
相和  
相和

聖母寺  
天竺宗  
本尊不動明王  
傳教木師依

明和十二年  
禪院  
合併

妙音山 真淨寺  
立本寺末

開山 真淨院 日蓮聖人  
明和廿六年 廢寺  
道入寺 合併

國土岐郡土岐市  
存ス

本尊

前基道入法師

慶長三年創立  
寺地八田氏寄付  
日氏の子孫が村に現存セリ

口寺地西南張南セルヲ以テ八幡山寄リ

振河ノ諸山ヲ聖シ近リハ京都十萬戸

一畝ノ下ニ集ル障ヲ閉テ静坐若事

ヲセバ松風徐ニ起テ煩塵忽ニ滅ス

無量山 歸命院

山端東一葉寺川筋ノ西岸ニリ  
申ニ宗東山禪林寺末(北觀也)

本山 真詔僧都

中興開山 淨西法師

當院ハ素ト東山禪林寺ノ別院ニシテ 真詔僧都ノ

草創ナリ 其後元和八年戊午 淨西法師堂

舎ヲ此地ニ移シ 淨業不退ノ道場トナス

理即院 廢寺トナリ 詔寺ノ地藏菩薩ヲ移安ス

理即院 山端地藏堂トシテ 淨土宗

地藏菩薩 坐像四尺 惠心僧都作

行者堂

真淨寺トナル

○ 檜峠 修学院より高野ニ達スル山道ナリ古ハ京都ヨリ八咫

大原ニ至ルニ此街道ヲ通行セシモノナリ峠ニ一大老檜アリ八人ノ  
橋荷ヲ備セテアマリアリト云傳フ今ハ其樹ナシ

○ 守禅庵 檜峠ノ北ニアリ 禅宗 向基ハ 徹之村義亨和

尚ニシテ 大燈国師ノ廟所アリ 初二年寺村田光寺ノ後山ニアリ

レト云 今尚古井ノ跡 明ニアリ

○ 修学院八景 隣窓夜雨 茅檐秋月

村路晴嵐 修学晚鐘 遠岫歸樵 松翁夕照

敵峯暮雪 千田落雁

本朝高僧伝卷之七十四

二二二 云々 檜峠  
○ 檜峠 修学院ヨリ高野ニ達スル山道ナリ古ハ京都ヨリ八咫  
大原ニ至ルニ此街道ヲ通行セシモノナリ峠ニ一大老檜アリ八人ノ  
橋荷ヲ備セテアマリアリト云傳フ今ハ其樹ナシ

○ 赤山禅院 本村ノ北ニアリ  
寺ニ在リ 徳久 日次 北 延徳 山崎 自利  
土人ニ在リ 徳久 日次 北 延徳 山崎 自利  
寺ニ在リ 徳久 日次 北 延徳 山崎 自利  
放生池ニ在リ 秋山楊高ノ日錦綿  
赤山印形寺 出願法華寺 國光寺 寶珠寺 其後 赤山

昌泰元年神皇  
 三十四年路行  
 文苑を身一  
 佐才技ケラん  
 世功由水尾帝  
 教レテ神宮ヲ  
 改修シ拜加名  
 祈ノ教額ヲ賜  
 ハルト

赤山明神也欲射奏園城壇者其議遂復

仁和四年安惠和尚大師ノ遺命依テ禪院ヲ造リ一切経ヲ  
 其直ス

本地也 拜殿ノ西ケリ 地藏菩薩ノ安置

左ノ末社 西宮 十禪師 春日 松尾ノ四坐

右ノ末社 信長 如法 新羅 平路ノ四坐

藤原敦忠卿ノ山莊ノ址 今ノ赤山禪院ノ凡外ナリ

赤山禪院 本村ノ北ニアリ

祭神 慈覺大師唐土ヨリ帰朝ノ時共ニ

未朝ノ神ナリ 赤山ト稱スルハ 唐土ニ於テ口神

ノ鎮坐スル地名ナリ依テ移シテ此土地ニ命

スト云フ 土地静閑境内廣濶青松紅楓

ト林立レ禽鳥 楮ニ啼リ西方ニ小潭アリ

放生池ト名リ秋山清高ノ日錦繡 白石潭

ニ映シテ美觀 言フヘカラズ

南洲年名別業

此地古戰場ナリ昔  
建武年間向尊  
氏京師ヲ犯シ  
天皇皇殿山ニ幸  
入此後本向尊  
相馬堂ニ葬ル  
軍ニアリ  
~~此~~  
此坂ヲ登リテ  
戰軍ヲ毀テ  
之ヲ命リ

賀茂幸鷹ノ人  
歌アリ 石ニ刻シ後  
ノ頭ニアリシモ碑石  
半ヨリ挫折シ上部  
ノ所在ヲ詳セス  
村中真氏ニ寫シテ  
表出シテ之ヲ藏ス  
其碑ニ  
夕羽殿ハいんじ  
山行するたぐ集  
もてしめたるに  
形なきはれとせ  
人思ふもはん  
方山出る碑を  
んとて、むら  
季藤七郎一  
りもハハナ  
く欠クニ  
ハ十三有季藤

此地平安城ノ表鬼門ニナルヲ以テ方陣新築ニテト堂ノ  
境内ニ香水  
金神社アリ  
身辰本社ヨリ西ノ方ハ口  
講ニアリ後北條三郎ノ墓  
額タテヨク

○ 雲母坂 林丘寺ノ南ヨリ比叡山四明ヶ山獄ニ  
登ル坂ナリ此道堀堀し捷路ナリ 雲母ヲ生スルノ母ナリト云フ  
意ニテ以テ雲母坂ト名ワリト云フ  
○ 身羽谷 音川ノ源ニシテ 相川石ノ産  
出見多し昔音羽湊アリテ名所ノ地  
ナリシモ築石伐取ノ為湮滅セリ惜ムヘキ  
ノ事氏ナリ  
○ 音羽川せき拾遺 まてれと中流津せよ人のこの見入

料理店 平八 山端町ニアリ 古来ヨリ有  
ナレ 割割店ニシテ 河海ノ鮮魚アリ 特ニ鯉  
汁、鰻飯、鮎塩焼等ヲ佳トス 榭樓ハ  
樹林ノ間ニ点在シ 高野ノ清流ハ潺湲トシ  
テ園後ヲ過リ 夏ノ夕 螢見ノ為 老人  
車ヲ驅テ 臻ルモノ多シ ○ 十一層 同町ニアリ  
席上東南ヲ望ムハ 如意ヶ嶽、神樂泉  
粟田山、四山公園等一瞬ニ集ル 杯ヲ呼ビ  
肴ヲ命ス亦欲スル所ナリ

名不...  
尺...  
尺...  
尺...

季...  
氏...  
安...  
雲...  
其...  
收...  
ハ...  
ス...  
年...  
山...  
春...  
舞...  
舞...

○ 鶏ヶ谷ハ醸酒ノ銘ナリ十一屋ノ業ニヨリ山形  
屋ト云フ

○ 鳩ハツ橋ヲ平八ノ南ニヨリ近年ノ創業ナリト

○ 名氏 願客大ニ博シ風味甚佳ナリ堂名ヲ

鳩神をトシテ 額及招牌ノ書ハ海石石羽ノ

門人西村 甘洲 筆ナリ

○ 物産 米麦、花崗 草種、花崗 石、花崗 草等ヲ出ス

○ 題目 踊ノ一 享保年間(距今百八十年)一道入寺

ノ住僧ノ唱催セシモノナリト云フ 故ニ踊リマシ

保蓮華経ノ唱ヘ 大鼓 鐘ニテ 嘶立ツ此踊

ハ林丘寺ノ宮 而經覽相成酒肴ヲ賜也

村ノ婦女子ハ 髪ヲ押髷ニ結ブ○吉日巳ノ刻迄

切子燈籠ヲ 林丘寺ノ宮ヨリ 請取晚景ニヨリ

点燈シ 踊ヲ始ム 三周ノ後ハ俄踊リト称シ 吾道

ノ公也 踊ヲナス

村役人踊リ場ニ列席シ 一車アリ 若連衆 松明斗本

ヲ持シ ス其酒三周ノ後 俄踊ヲナシ 而シテ 後題目踊

ヲナス 今ハ口俄踊ナクサシ 踊ト称シ之ヲ行フ

当村ノ字ニ ○後安堂 ○月輪寺

三井寺ノ月輪寺ニ接ス

○宮ノ脇 ○冲殿 ○茶屋ノ前 ○佛殿

佛殿ノアリニ跡ナリト云フ

○小馬場 ○挟間寺ノ名アリ 泉殿 ○十権寺

地産米麦 西似 茄子 大根 石村ホ

此墓所ニ付 諸書ニ 散見スル 密口 今茲ニ 猶軒ハ 録ヲ  
左ニ 抄出ス





